





●明治廿三年(二月)訓令乙第五號  
 市町村税ノ特別税ヲ新設及地租七分ノ一其他直接國税ノ百分ノ五十ヲ超過附加税ヲ賦課スル  
 等許可ヲ稟申スルニ方テハ今般訓令甲第八號ノ通ニシテ該稟請書差出シタル節ハ賦課ノ適否  
 負擔ノ如何等詳細意見ヲ具シ及參照附屬書類ノ有無ヲ調査シ就中計算ハ精數檢算ノ上進達ス  
 ヘシ

●明治廿三年(二月)訓令甲第九號  
 市制町村制第百十二條ニ依リ市長ハ縣知事ヘ町村長ハ郡長ヘ報告スル市町村費決算表式左ノ  
 通相定ム郡長ハ其町村ノ報告ニ據リ之ヲ一表ニ製シ翌年度ノ二月限リ縣知事ヘ中報スヘシ  
 但明治廿二年(八月)訓令甲第六十四號ハ廢止ス

市町村費決算報告書  
 收入ノ部

郡役所 市役所 町村役場

一金	市町村費決算額
内 課	財產ヨリ生スル收入
金	使用料及手数料
金	雜 收 入
金	前年度繰越金
金	市 町 村 税

第八類 市町村税

●明治廿二年法律第十一號ニ依リ存積シタル會議ノ評決ニ係ルモノハ各其科目ニ於テ内譯ト  
 シテ朱書スヘシ支出ノ部ニ於ケルモ亦同シ

支出ノ部

一金

内 譯

金 金 金 金 金 金

會 議 費 (役所) 役 場 費

土 木 費 土 木 費

救 護 費 救 護 費

救 助 費 救 助 費

地 價 割

營 業 割

戶 別 割

一夫役及現品ヲ賦課セシトハ之ヲ金額ニ算出シテ記載スヘシ

一市町村特別税ヲ設ケ及從前區町村費徵收科目ノ反別割等ヲ襲用スル片ハ戶別割ノ次ニ之ヲ  
 掲載スヘシ

一金	市町村費決算額
内 譯	會 議 費
金	土 木 費
金	救 護 費
金	救 助 費
金	地 價 割
金	營 業 割
金	戶 別 割





留ト看做シテ記入スヘシ  
 一 囚人及懲治人ノ欄ニハ囚人ハ檢事ヨリ通知シタル犯人ニシテ未ク刑期ヲ終ラサル者及懲治場ニ在ル者ヲ出寄留ト看做シテ記入スヘシ  
 一 失踪ノ欄ニハ本年十二月三十一日調ノ戸籍ニ現ニ失踪ノ登記アル者ノ員數ヲ記入スヘシ  
 一 他府縣入寄留ノ欄ニハ他府縣ヨリ本郡市ニ來テ住スル者又他郡市入寄留ノ欄ニハ一府縣内ノ他郡市ヨリ來テ住スル者ヲ記入スヘシ  
 一 再掲町村ハ前表ニ掲ケタル町村ヲ云但此町村出入ノ調査ハ他府縣他郡市ノ出入寄留ヲ記載スルハ勿論全郡内ト雖モ其町村ノ外ニ出テ住スル者ハ他郡市出寄留トナシ町村ノ外ヨリ來テ住スル者ハ他郡市入寄留トナシ記入スヘシ  
 ● 明治廿三年(一月)訓令乙第壹號 郡役所 市役所  
 明治廿二年十二月三十一日現在町村人口調ノ義左記ノ様式ニ據リ取調來ル三月二十日限り無遲滯差出スヘシ

何郡町村別戸口表 明治二十二年十二月三十一日現在

何 町	何 村		合 計	現 住 戸 數	役 所 名
	男	女			

何郡町村別人口出入表 明治二十二年十二月三十一日現在

計 何 村	何 町				計 何 村	役 所 名
	何 村	何 町	何 村	何 町		

何郡町村別人口出入表 明治二十二年十二月三十一日現在

町 村	出				入				籍	
	外國行	他府縣出寄留	他郡市出寄留	他町村出寄留	陸海軍在營艦者	囚人及懲治人	失踪	他府縣入寄留		他郡市入寄留

● 明治廿三年(六月)縣令甲第四十九號  
 明治廿二年九月縣令甲第二百二十七號出生届ニ産婆ノ連印ヲ要スル件廢止ス  
 ● 明治廿三年(十月)訓令甲第六十一號 郡役所 市役所 町村役場  
 戸籍表式別冊之通相定ム市町村長ハ毎年一月三十一日迄ニ甲號表式ニ依リ調製シ郡役所(市ハ本縣)ニ差出ス可シ郡役所ハ之ヲ統計シ乙號表式ニ依リ調製シ二月二十五日限り本縣ニ報告ス可シ  
 但明治十九年(十二月)訓令甲第七十七號及明治二十一年(十二月)訓令甲第九十四號ハ廢

止ス

甲 (別冊)

第一 戸口表				明治何年十二月三十一日現在	市町村名
本	籍	男	女	合	人

一 現住戸數ノ欄ニハ本籍人ト本籍ニ非サル人ト又戸主タル者ト戸主タラサル者トヲ問ハズ渾テ其地ニ現住シテ一世帯ヲ爲ス宛數ヲ記入スヘシ但官舎社寺學校病院製造所等ノ構内ニ居住スルモ別ニ一宛ヲナス者ハ又一戸トシテ之ヲ記入スヘシ

一 町村制第十六條第二項ニ依リ町村ノ組合ヲ設クルト雖モ一町村毎ニ製表シ町村名ノ肩ニ何町村組合ト記載スヘシ以下各表モ之ニ倣フ

第二

人口出入表

明治何年十二月三十一日現在

市町村名

外國行	出	入
他府縣	出寄留	他府縣
他郡市	出寄留	他郡市
他町村	出寄留	他町村
陸海軍	在營艦者	在營艦者
囚人及	失	失
失	踪	踪
入寄留	入寄留	入寄留
他府縣	入寄留	他府縣
他郡市	入寄留	他郡市
他町村	入寄留	他町村

一 外國行ノ欄ニハ外國ニ行キタル者又他府縣出寄留ノ欄ニハ他府縣ニ出テ住スル者又他郡市出寄留ノ欄ニハ一府縣内ノ他郡市ニ出テ住スル者又他町村出寄留ノ欄ニハ一郡内ノ他町村ニ出テ住スルモノヲ記入スヘシ

一 陸海軍在營艦者ノ欄ニハ歸休兵ヲ除キ現ニ陸海軍ノ屯營艦船ニ在ル下士卒傭夫馬丁ヲ出寄留ト看做シテ記入スヘシ

一 囚人及懲治人ノ欄ニハ囚人ハ檢事ヨリ通知シタル犯人ヨシテ未タ刑期ヲ終ラサル者及懲治場ニ在ル者ヲ出寄留ト看做シテ記入スヘシ

一 失踪ノ欄ニハ本年十二月三十一日調ノ戸籍ニ現ニ失踪ノ登記アル者ノ員數ヲ記入スヘシ

一 他府縣入寄留ノ欄ニハ他府縣ヨリ本郡市ニ來テ住スル者又他郡市入寄留ノ欄ニハ一府縣内ノ他郡市ヨリ來テ住スル者又他町村入寄留ノ欄ニハ一郡内ノ他町村ヨリ來テ住スル者ヲ記入スヘシ

甲											
第三 本籍人族別表 明治何年十二月三十一日現在											
市町村名											
族籍	戶主	家	族	乘		兒		合		計	計
				男	女	男	女	男	女		
華族											
士族											
平民											
合計											

一 乘兒ハ本年末日現ニ戶籍ニ在リテ未タ人ノ養子女トナラサル者ノミヲ掲クヘシ

第四 本籍人生年別表

明治何年十二月三十一日現在

市町村名

生年	計	
	男	女
明治二十三年生		
明治二十二年生		

同二十一年生  
同二十年生  
同十九年生

生年不詳  
合計

一本表ハ本籍人ノ生年ヲ調査スルモノニシテ其調査ノ年ヲ首トシ以上年次ヲ逐ヒ明治慶應元  
治文久萬延安政嘉永弘化天保文政文化享和寛政天明安永ニ溯リ年號何年生ト列記シ其生レ  
タル年ニ從ヒ記入スヘシ例ハ明治二十三年生レノ下欄ニハ同年一月一日ヨリ十二月三十一  
日マテニ出生シタル者ヲ記入スルカ如シ但戶籍編製以前逃亡失踪シ其生年詳ナラサル者ア  
ルトキハ生年不詳ノ項ニ記入スヘシ

第五

本籍人出生死亡婚姻表

明治何年

市町村名

種類	別	計	
		男	女
生產	公		
	私		
合計			





載セサルモノナルヲ以テ人民各自ノ届書ニ依リ死産ノ月日ニ拘ハラス本年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ届出タル數ヲ記入スヘシ但死亡數ハ算入スヘカラス

第六 就除籍送入籍及失踪表 明治何年 市町村名

類 別	明治何年		合 計
	男	女	
無籍者就籍			
外國ヨリ入籍者			
失踪者除籍			
重籍者除籍			
外國へ送籍者			
他府縣へ送籍			
府縣内送籍			
他府縣ヨリ入籍			
府縣内入籍			
失踪			

一 無籍者就籍ノ項ニハ明治五年戸籍編製ノ時ヨリ無籍ニシテ本年ニ至リ始テ籍ニ就キタル者

ヲ記入スヘシ

- 一 外國ヨリ入籍者ノ項ニハ婚姻ニ依リ外國人ノ入籍シタル者ヲ記入スヘシ
- 一 失踪者除籍ノ項ニハ本年中滿八十歳ニ至リ除籍シタル者及八十歳以上ニシテ失踪シ本年中滿三十六箇月ニ至リ除籍シタルモノヲ記入スヘシ
- 一 重籍者除籍ノ項ニハ一人ニシテ兩所ニ本籍ヲ有スルコヨリ一方ヲ削除シタル者ヲ記入スヘシ
- 一 外國へ送籍者ノ項ニハ婚姻ニ依リ外國へ送籍シタル者ヲ記入スヘシ
- 一 府縣内送籍又ハ入籍ノ項ニハ一府縣内ニ於テ本郡ト他郡トヲ問ハス總テ他ノ市町村へ送籍シ又他ノ市町村ヨリ入籍シタル者ヲ記入スヘシ
- 一 總テ送籍ハ先ツ甲地ヨリ乙地ニ送籍シテ甲地ニ於テ乙地ヨリ入籍シタル旨ノ通知ヲ該年中及翌年一月製表ノ時マテニ受ケテ除籍シタル者ノ數ヲ記入スヘシ但其通知ヲ製表後ニ受ケタルモノハ翌年ノ數ニ合算スヘシ
- 一 失踪ノ項ニハ本年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ本籍人ノ失踪ヲ届出タル者ヲ記入スヘシ但復歸又ハ所在分明ノ届出アリタル者ハ此限ニアラス





乙		第四 本籍生年別人口表 (明治何年十二月三十一日現在) 何郡役所				
類	別	生年		計	何郡役所	
		男	女			
第五 本籍出生死亡婚姻表 (明治何年)	何郡役所	明治廿三年生			同十二年生	
		同廿二年生				
		同廿一年生				
		同二十年生				
		同十九年生				
		同十八年生				
		同十七年生				
		同十六年生				
		同十五年生				
		同十四年生				
		同十三年生				
		合計	生年不詳			

乙		第六 就除籍送入籍及失踪表 (明治何年) 何郡役所			
類	別	結婚數		年未配偶數	計
		男	女		
第九類 戶籍	何郡役所	附屬			同
		生者			
		產者			
		明治廿二年生			
		同廿一年生			
		同二十年生			
		同十九年生			
		同十八年生			
		同十七年生			
		同十六年生			
		同十五年生			
		同十四年生			
		同十三年生			



○送籍

●明治廿二年(七月)訓令甲第五十七號 市役所 町村役場  
 東京市役所宛ヲ以テ送籍書ヲ東京府廳へ送付スル向往々有之趣ニ候處本月一日ヨリ從前ノ  
 通該事務ハ區長ニ於テ取扱ニ付爾今ハ總テ當該區役所へ送付スヘシ

●明治廿三年(十二月)訓令甲第七十九號 市役所 町村役場  
 明治十九年(十一月)訓令甲第四十四號中入籍報知書ノ用紙ニ限リ便宜上郵便端書ヲ用ユルモ  
 妨ナシ

○寄留

●明治廿三年(一月)訓令甲第二號 郡役所 市役所 町村役場  
 兵籍整理上必要アルヲ以テ自今該籍ニ在ル者他ノ市町村内へ轉籍又ハ寄留等ノ異動アル片ハ  
 其都度市長ハ轉居先ノ郡役所へ町村長ハ所轄郡役所及ヒ轉居先ノ市役所又ハ町村役場へ詳細  
 通報シ郡役所ニ於テハ他郡内ニ係ルモノハ其郡役所へ通報スヘシ

○結婚、離縁

●明治廿三年(四月)訓令乙第廿九號 郡役所 市役所  
 養嗣子離縁ノ場合ニ於テハ離縁復籍ヲ出願セシメ別段廢嫡ノ手續ヲ要セス

但之ニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消ス

○行旅死亡人取扱

●明治廿三年(三月)訓令乙第十六號 郡役所 市役所  
 明治十五年第五十號公布以前ニ係ル宿驛遞送費ニシテ他府縣下へ償還ノ分ハ本廳ヲ經由候處  
 自今其廳ヨリ直ニ線替他郡市役所(東京府ハ區役所)へ償還候様取計フヘシ  
 但管内各町村ノ線替ニシテ償却未済ノ分モ本文同様心得ヘシ

●明治廿三年(十一月)訓令甲第七十一號 郡市役所 町村役場  
 明治十九年(四月)本縣達乙第五十七號行旅死亡人取扱手續第四條中「滿期後二十日」トアルヲ  
 「其公告ノ日ヨリ九十日」ト改正ス

○第十類

○醫師

●明治廿二年(四月)訓令乙第二十二號 郡役所 市役所  
 醫師組合會ニ於テ議決中藥價往診手術料ハ認可ノ限ニ在ラズ且從前ノ認可ハ取消ス  
 但醫師組合へ告示スヘシ

●明治廿二年(七月)訓令甲第五十四號 郡役所 市役所 町村役場

第九類 送籍 寄留 結婚、離縁 行旅死亡人取扱

明治十九年(十二月)訓令甲第六十七號醫師組合手續第七條左ノ通改正シ第八條ヲ第九條トシ  
以下順次繰下ケ而シテ更ニ左ノ第八條ヲ加フ

第七條 組合規約又ハ議事規則ハ本廳ノ認可ヲ受クベシ

第八條 管理者ハ組合區域ノ町村名及組長幹事組合人員ノ氏名ヲ届出スベシ

○産婆、針灸治

明治廿二年(五月)訓令甲第三十八號

郡役所 市役所 町村役場

産婆組合手續左ノ通相定ム

但來ル七月一日ヨリ實施スベシ

産婆組合手續

- 第一條 此組合ハ産婆ノ講習ニ關シ左項ノ目的ヲ達セシメン爲メ設クルモノトス
- 一 業務ニ關スル學術ヲ研究スル事
- 一 智識ヲ交換シ陋習ヲ矯正スル事
- 一 業務上ニ關スル規則ヲ講究スル事
- 第二條 産婆ハ必ズ此組合ニ加入シ故ナク集會ニ缺席スルヲ得ス
- 第三條 毎組合少クモ一年六回以上集會スベシ
- 第四條 組合ニハ會頭一名幹事三名ヲ置キ組合ニ關スル諸般ノ事ヲ處理セシムベシ  
但會頭ハ醫師中ニ就キ撰定囑托シ幹事ハ組合中ヨリ互撰スベシ

- 第五條 組合ハ申合規約ヲ定メ本廳ノ認可ヲ受クベシ
  - 第六條 集會期日及場所ハ每會十日以前ニ郡市役所經山届出ベシ
  - 第七條 組合ニ關スル一切ノ費用ハ組合産婆支辨スベシ
  - 第八條 此組合ハ郡市長之ヲ管理ス
  - 第九條 郡市長ハ組合町村區域ヲ定メ其町村名及會頭幹事組合人員ノ氏名ヲ届出ベシ
  - 第十條 集會當日衛生官吏ヲシテ監査セシムルコトアルベシ
- 明治廿三年(二月)訓令甲第十一號 郡役所 市役所 町村役場
- 明治十九年(十二月)訓令甲第六十七號醫師組合手續及明治廿二年(五月)訓令甲第三十八號産婆組合手續ヲ參照シ針灸治組合ヲ設ケ來四月三十日限リ本廳ニ届出認可ヲ受クベシ

○種痘

- 明治廿二年(七月)縣令甲第九十五號
- 明治十八年(十二月)甲第二百二十九號種痘細則第一條ノ認可ヲ受クベシナハ届出ハシト改ム
- 明治廿二年(五月)訓令甲第三十九號 郡役所 市役所 町村役場
- 今般牛痘種繼所ヲ設置候ニ付新鮮活潑ナル痘苗ヲ製造シ爾來春秋兩度適宜配布ス
- 但痘苗變性若クハ欲之ズルモ其時々本廳第二部衛生課ニ請求スベシ



○傳染病豫防 付清潔法

●明治廿二年(七月)訓令甲第百五十三號  
 郡役所 市役所 町村役場  
 明治廿一年(四月)訓令甲第百三十四號虎列拉病豫防消毒心得書中左ノ事項ヲ追加ス  
 生石灰ハ近時諸多ノ經驗ニ依リ虎列拉病毒ヲ撲滅スルニ十分ノ効力ヲ有シ該吐瀉物及吐瀉物  
 ノ混入セル糞便等ノ消毒藥タルコトヲ認メタリ而シテ本品ハ價廉ニシテ之ヲ得ルニ易ク且此  
 品ヲ以テ消毒シタル糞便ハ肥料ニ供シ毫モ危險ナキ有効ノ消毒藥ナリトス故ニ虎列拉病ノ消  
 毒ニハ重ニ本品ヲ使用スヘシ  
 一 石灰乳(生石灰一分水二十分)ハ虎列刺患者ノ吐瀉物等ニ於ケル消毒藥トシテ從來強石炭酸  
 水、稀硫酸、昇汞水、格魯兒石灰水等ヲ用非タル場合ニ換用スルヲ得  
 一 本品ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ト二十分ノ水トヲ和シ能ク攪拌スヘシ(生石灰ハ水ニ觸レ  
 テ忽チ水蒸氣ヲ發スルモノヲ用フベシ)  
 一 本品ハ成ルヘシ用ニ臨テ製スヘシ製後日ヲ經タルモノヲ用フルトキハ能ク之ヲ攪拌スベシ  
 一 本品ヲ以テ吐瀉物糞便等ヲ消毒スルニハ其量ノ十分一ヲ投シ攪拌スヘシ  
 一 本品ヲ以テ消毒シタル糞便ハ一週間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルコトヲ得且其使所ハ消  
 毒後上園スルモ妨ナシ  
 一 家屋ノ消毒法ニハ從來亞硫酸蒸ヲ用ヒタリト雖モ左ノ諸項ヲ以テ之ニ換用スルモ可ナリ  
 一 患者ノ居室及其他消毒ヲ必要ト認ムル室ニハ強石炭酸水又ハ石灰乳ヲ以テ之ヲ拭淨シ盡、

●明治廿三年(五月)訓令甲第百四十號  
 郡役所 市役所 警察署及分署 町村役場  
 客年來歐米諸國ニ蔓延セル流行性感胃既ニ東京府其他二三ノ諸縣ニ流行シ目下縣下ニ於テモ  
 疑似ノ症點發ノ兆アリ若シ該病ニ感染ノ者有之候ハ、左ノ手續ニ據リ速ニ報告候様取計ヘシ  
 一 流行性感胃患者報告手續  
 一 醫師ハ該患者ヲ診察シタル片ハ甲乙號ノ書式ニ準シ最寄郡市役所又ハ警察署及分署町村役  
 場等ノ内ヘ直チニ届出ヘシ  
 一 郡市役所又ハ警察署及分署町村役場等ニ於テハ前項ノ届書ヲ領シ每一週間取纏メ本廳第二  
 部衛生課ヘ送付スヘシ  
 甲號表

建具等ハ能シ日光ニ曝シ其室内ニハ十分ニ大氣ヲ通セシムヘシ  
 一 室内ノ器具物品ハ強石炭酸水又ハ石灰乳ヲ灌キテ拭淨シ其消毒藥ヲ用ヒ難キモノハ乾布ニ  
 テ丁寧ニ之ヲ拭フベシ但其乾布ハ用後消毒藥又ハ燒却スベシ

流行性感胃患者報告

發病地	市町村	發病月日	何月何日
男女ノ別及氏名	男或ハ女 何某	年 齡	何年何月
職 業	何 業	診斷月日	何月何日

第十類 染傳病豫防 付清潔法 四百二十五

乙號表

年 月 日 縣知事宛 何郡市町村醫師 氏 名 印

流行性感胃患者轉歸報告

男女ノ別及氏名 男或ハ女 何 某 轉歸月日 何月何日全 治或ハ死亡

年 月 日 縣知事宛

何郡市町村醫師 氏 名 印

●明治廿三年(十月)訓令甲第六十六號 郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場 傳染病豫防心得書内務省ヨリ更ニ別冊之通リ被定候條自今此趣旨ニ基キ傳染病ノ豫防撲滅ヲ 計畫スヘシ

但シ明治十三年本廳乙第六十六號同廿年訓令甲第廿二號中第二條ノ第二項乃至第三條同廿 一年訓令甲第卅四號及本年訓令甲第五十一號同第五十四號ハ廢止ス (別冊)

傳染病豫防心得書

傳染病ノ流行ハ一八一家ヨリ町村郡市ニ及ヒ遂ニ延テ府縣全國ノ災害トナルモノニシテ 之ヲ豫防スルニハ一人一家ノ始メニ於テスルニ非サレハ其全功ヲ收ムルヲ能ハス今ヤ郡 市町村各其利害ヲ負擔シ處理スルノ日ニ及テハ傳染病ノ如キ其病毒チ一八一家ニ撲滅シ

テ全聚落ノ生命財產ヲ安全ニ保護スルハ自治事業ノ最モ急要ナルモノトス故ニ若シ其市 町村ニ傳染病者發生スルコトアレハ所在ノ醫師ハ成規ノ通報ヲ爲シ豫防上ノ要件ヲ病家ニ 示諭シ病家ハ醫師及ヒ當該吏員ノ示諭スル諸件ヲ守リ當該吏員ハ十分ノ注意ヲ以テ豫防 消毒ノ處置ニ疎虞遺漏ナカラントシテ豫防ノ方法ヲ實際ニ徹底セシメント スルニハ衛生組合ヲ設ケ組合中互ニ警戒扶持スルヲ良シトス蓋シ傳染病ノ流行ハ其初メ 些細ノ注意ヲ欲キ或ハ患者ヲ隱蔽シ又ハ吐瀉物ヲ下水、芥溜等ニ投棄シ又ハ病毒感染ノ 疑アル雇人稼人等猥リニ歸郷セシムル等ニ因リ病毒遠近ニ傳播シ復テ防遏スヘカラサル ノ勢チナスト其例證一ニシテ足テ到底衛生組合ノ法ヲ設ケ隣保相互ノ制裁ヲ以テ各人 ノ注意戒慎ヲ喚起スルニ非サレハ市町村共同ノ方法モ其全功ヲ収ムルヲ能ハサルナリ 以上ハ豫防實施上市町村ニ於テ擔當スヘキ用意ノ要領ニシテ若シ其流行數市町村ニ及フカ 若シハ病性ノ急劇ナル虎列刺ノ如キモノニ在テハ更ニ郡又ハ府縣ノ力ヲ以テ豫防ノ方法 ヲ務メサル可ラス

此心得書ハ主トシテ患者發生セル時ノ處置即チ有病時ノ豫防法ヲ擧ケタルモノナレトモ 總テ傳染病ハ地方病トナリテ年々發現スル地ヲ除クノ外ハ概チ數年若クハ數十年ヲ隔テ 流行スルカ故ニ其流行セサル時ニハ永シ本病ノ災害ヲ免カレ得タルカ如キ思フ爲スト 唯モ傳染病毒ハ不潔汚穢ノ土地ニ入レハ容易ニ蕃殖蔓延スルモノナルヲ以テ平常上水 下水ノ改良ニ注意シ掃除ノ方法ヲ設ケル等万全根治ノ策ヲ怠ラス用水ヲ純清ニシ住地ヲ乾 淨ナラシムルニ非サレハ決シテ其流行ヲ免カル、能ハス故ニ就中都會ノ地ニ於テハ銳意

第十類 傳染病豫防 付清潔法

上水下水ノ改良工事即チ水道暗渠布設ノ事ヲ計畫シ衛生上百年ノ長計ヲ成スヲ要ス

總則

- 第一條 市町村ニ於テハ便宜衛生組合ヲ設ケ清潔法、攝生法其他傳染病豫防ノ事ニ就キ規約ヲ立テ之ヲ履行スルヲ要ス
- 第二條 醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サズ成規ノ通知ヲ爲スハ勿論此心得書各病ノ部ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スルヲ要ス
- 第三條 市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病者ヲ診斷セル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室、器具、被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲ怠ラサランコトヲ要ス
- 前項醫師ノ通知ニ接セサルモ傳染病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如クナランコトヲ要ス
- 第四條 傳染病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リテハ人夫ヲシテ病室ニ汚染セルモノヲ取り集メシメ消毒法ヲ施スヲ要ス
- 第五條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ患者ノ身體若クハ死屍、看病人、患者ノ居室其他病室ニ汚染セル衣服、器具等ニ消毒法ヲ行フヲ要ス
- 第六條 總テ消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員、人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運搬器等

モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヲ要ス

第七條 郡市(北海道廳ニ於テハ區)長其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ其豫防法ヲ周到ナラシメ又有病地ノ病況ト豫防法實施ノ景況トヲ具シテ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

虎列刺

虎列刺ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘虐至ラサルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ合ルカ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セシモノ、消毒法ニ遺漏ナカラシムルハ勿論患者發生ノ最初即チ病毒ノ未ダ散蔓セサル前ニ於テ十分消毒法ヲ行ヒ病室ヲ具一小局部ニ熄滅セサルヘカラス

第一條 虎列刺患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者ノ自宅ニ於テ消毒看病人ノ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルヲ
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ撰ミ餘メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ其吐瀉物ハ成ルヘシ之ヲ燒却スルコト
- 五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五

第十類 傳染病豫防 付消毒法

分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘシ能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト

六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取廻リ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

七 患者ノ身體、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト

八 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ且其吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒシルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

九 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト

十 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト

第二條 虎列刺發生シタルトハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ト成ルヘシ交通ヲ爲サ、ルコト

二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但已ムチ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

三 井池ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流澆潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト

四 飲食物ハ成ルヘシ熱煮シテ用フルコト

五 總テ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下利患者ノ上レル便所ニハ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌クコト

第三條 虎列刺流行ノ際下利若クハ吐瀉スル者アルトキハ其瀉下物吐出物ニ石灰乳、又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ

第四條 虎列刺發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ

一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等別然區別スルチ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹狭ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二 前項及傳染病豫防規則第十五條第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト

三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト

四 交通遮斷中ハ市町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ其区域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師チンテ區域内ノ各家ヲ巡診セシメ且豫防法ヲ諭示セシムルコト

五 患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ遮病院ニ隔離スル等遮斷區域内ノ患者全ク絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生セサルトキハ遮斷ヲ解除スルコト

六 遮斷區域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒已ニ他方ニ及ヒタリト認ムル

第十類 傳染病豫防 付清潔法

トキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト

第五條 交通遮斷區域内若クハ會テ虎列刺ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ據リ

テ消毒的清潔法ヲ施行スルコト

一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ

疏通セシムルコト

二 芥溜ノ塵芥ハ成ルヘ之ヲ燒却シ若シ燒却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周テ撒

布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル時ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコ

ト

三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ爲スコト

一 家什ヲ出シ塵ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、器、建具等ハ日光、空氣ニ

曝スコト

二 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト

三 衣服臥具ハ殊ニ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト

第六條 虎列刺流行ノ虞アルトキハ其市町村又ハ郡若クハ府縣ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行ス

ルヲ要ス

一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコ

ト

二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第七條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、郡市町村吏員等及警察官、衛生官吏等ヲ以テ便宜豫防委

員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔當セシムルヲ要ス

腸室扶私

腸室扶私ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ虎列刺病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蓄殖漏  
漫シ廣ク流行ノ勢ヲ成スモノナレハ其豫防ノ方法ニ至テモ虎列刺ト略ホ其趣ヲ同フス抑  
モ本病ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サル  
コトナシ明治十三年傳染病豫防規則發布以來十年間ノ患者三十一萬餘死亡七萬餘ノ多キ  
ニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久キ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テ  
ハ却テ虎列刺ヨリ甚シキモノアラントス故ニ本病流行ノ兆ナルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ  
盡シテ之ヲ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防センコトニ急ルナカランヲ要ス

第一條 腸室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト

二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ遊病院或ハ

適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ長クスルコト

四 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト

五 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ

第十類 傳染病豫防 付清潔法

- 生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 六 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
- 七 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シクル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 八 患者ノ身體、糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マシタル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞便ニ汚染セル様注意スルコト
- 九 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水コテ洗フコト
- 十 患者ト居テ同スル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ之ヲ用ヒサルコト
- 第二條 腸窒扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
- 二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト
- 三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流濘潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ

之ヲ改修スルコト

- 四 飲食物ハ成ルヘク熟煮シテ之ヲ用フルコト
  - 五 總テ熱性病ニ罹リ又ハ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
  - 第三條 腸窒扶私患者續々發生シタルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス
  - 一 芥溜ヲ除掃シ下水ヲ濘濘シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト
  - 二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
  - 三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡視セシムルコト
  - 第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス
- 赤痢
- 赤痢ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ之ヨリ傳染スルモノコシテ病性大ニ腸窒扶私ト類似スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於テモ略ホ腸窒扶私ト同一ノ方法ニ據リ而シテ流行時ニ於テハ瀉下物中ニ血液ヲ混セサル患者ト雖モ本病者ト同様ニ取扱フヲ要ス
- 抑本病ハ腸窒扶私ト同シク頗ル慘毒ヲ逞クスルモノコシテ明治十三年以來十年間ノ患者數殆ト貳拾萬ノ多キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キハ一年ニ流行ノ勢ヲナシ病毒漸次ニ全國ニ浸淫セントス本病ノ年々發現スル地方ニ於テハ土地ノ清潔ヲ力メ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ濘濘シ發病時ニ於テハ撲滅ノ方法ニ十分ノ力ヲ盡シテ第二ノ流行ヲ防ク

等總テ腸室扶私ニ於ケルカ如クナランヲ要ス

實布屋里亞

實布屋里亞(格魯布)ハ多クハ未成年者殊ニ幼童與兒ヲ侵シ其幼稚ナル者ハ症狀最險惡ナリ抑モ本病ノ病毒ハ咽喉喉頭ノ如キ部分ニ舍リテ患者ノ痰唾鼻汁其他患者ノ使用セル衣服、玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患者ト健康者殊ニ兒童トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ小學校、幼稚園等兒童ノ群集ズル場所ハ往々本病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆アル場合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

第一條

實布屋里亞(格魯布)又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス  
一 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト

二 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶テ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサルコト

三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ長クスルコト

四 看病人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意シ數々硼酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ含漱シ且ツ患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

五 患者ノ痰唾、鼻汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ蓋覆ヲ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト又患者ノ含漱シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ルコト

六 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

七 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

八 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾、鼻汁ニ汚染シ又汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フ  
九 患者恢復ニ趣クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法ヲ行ハサル間ハ他ノ兒童ト遊戯セシメサルコト

第二條

實屋里亞(格魯布)發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ニハ兒童ヲシテ交通セシメサルコト

二 兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメサル様注意スルコト

三 兒童ノ感冒ニ罹ル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト

第三條

實布屋里亞(格魯布)患者頻々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一 醫師ヲシテ小學校、幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト

二 小學校、幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト

一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家ニ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校、入園ヲ禁スルコト

- 二 兒童中咳嗽或ハ發熱スル者アルトキハ速ニ退場セシメ且ツ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨ヲ其家人ニ勸告スルコト
- 三 生徒ノ缺席數日ニ及フモノアルトキハ其家ニ就テ缺席ノ理由ヲ問フコト
- 四 出頭時刻ヲ晚クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサルコト
- 五 唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルコト
- 六 教場一ハ層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戶ヲ開放シテ十分ニ空氣ヲ流通セシムルコト
- 七 教場内處々ニ適宜ノ瓶、壺等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰、唾ハ此器中ニ吐カシムルコト
- 第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテハ小學校、幼稚園ヲ閉鎖スルヲ要ス

發疹室扶私

發疹室扶私ハ其病毒患者ノ身體ヨリ揮散シ傳染スルモノニシテ傳播ノ最モ迅速ナルモノナリ其一ヲヒ流行ノ兆ヲ呈ハヌヤ忽チ散漫傳播シ殊ニ貧民部落等群集雜居ノ場所ニ侵入スルトキハ其家屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不良ナルヨリ傳染ノ力モ一層猛烈トナリ全部ノ衆人ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ速ニ患者ト健康者ト隔離スルヲ專要トス而シテ貧民部落ニ侵入セルトキハ避病院又ハ療養所ノ開設、貧民救濟法ノ普及ヲ怠ルヘカラス

- 第一條 發疹室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス
  - 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
  - 二 患者自宅ニ於テ消毒看病人履キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
  - 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ長クスルコト
  - 四 看病人患者ノ居室ヲ出ツル片ハ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
  - 五 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
  - 六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他總テ患者ノ身體ニ接觸セルモノ及ヒ看病人ノ衣服ハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 第二條 發疹室扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設アル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
  - 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
  - 二 家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト
  - 三 身體衣服ヲ清潔ニシ過度ノ勞力、露臥、夜行等身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコト
  - 四 總テ熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三條 發疹室扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス
  - 一 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト



二 患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

痘瘡

痘瘡ノ病毒ハ痘漿、痘痂中ニ含レルハ勿論患者ノ身體ヨリ發生スル蒸發氣中ニモ之ヲ含ミ傳染力ノ強烈ナル途ニ他病ノ上ニ出ツ故ニ一枚ノ弊衣ヨリ病毒ヲ傳ヘテ遂ニ無數ノ人衆ヲ侵セルカ如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ萬全ノ豫防法アリテ能ク其ノ患者ヲ未然ニ防制シ得ヘシト雖再ニ之ヲ反復セサレハ其効全カラサルヲ以テ荷シモ本病發生スルトキハ健康者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ患者ニハ密ニ消毒法ヲ行ヒ二者相待テ十分ニ病毒ヲ撲滅センコトヲ要ス而シテ從來ノ經驗ニ據ルニ保母、看病人タル者親シク患者ヲ介抱シ痘毒ニ汚染セラル、モ其手足、衣服等ニ十分ノ消毒法ヲ行ハサルヨリ病毒ヲ傳播セシムルノ例甚ク多シ深ク戒ムヘキコトトス

第一條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再ニ種痘ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘ヲ爲スコト

二 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト

三 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

四 患者自宅ニ於テ消毒看病人ヲ難キモノ及患者若シハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

五 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト

六 患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲シ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片、紙片又ハ落屑及ヒ居室内ノ塵埃等ハ必ス此器中ニ入ル、但器中ノ汚物ハ糞、鉋屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キテ之ヲ燒却スルコト

七 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

八 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

九 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

十 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

十一 患者ノ身体及ヒ痘漿ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ聚マラサル様之ヲ防シコト

十二 患者ノ痘瘡落痂スルモ隣師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他ノ兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス

第二條 痘瘡發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合

第十類 傳染病豫防 付清潔法

- ノ設ケアル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
  - 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サズルコト
  - 二 未痘兒ハ勿論再三種チ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘スルコト
  - 三 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ且種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムルヲ要ス

○消毒方

傳染病毒ハ其本體己ニ詳ナルアリ未ク詳ナラサルアリト雖モ要スルニ生々蕃殖ノ機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑ヲ容レズ此有機體タル各病孰レモ其性状ヲ異ニシ傳染ノ景況一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ専ラ患者ノ吐瀉物中ニ含リテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹室扶私病毒ノ如キハ患者ノ身體及ヒ之ニ接觸セルモノ其他居室内ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身體、居室内ノ空氣ヨリ又ハ痘瘡、痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スル者ハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力、蒸氣、藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用、用法ヲ領得シ決シテ疎漏ノコトナカラシムルヲ要ス

消毒ノ効力ヲ有スルモノ、種類及ヒ効用

第一 火力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナラ故ニ傳染ノ死體及ヒ病毒ニ汚染ス

第二 蒸氣附煮沸

ルコト甚シクシテ貴重ナラサル品ハ成ルヘク燒却スヘシ

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱氣ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘク熱氣消毒器中ニ入レテ熱氣ノ内部ニ透徹シ易キ様適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱氣ヲ周チシ通シテ消毒スヘシ

蒸氣消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒鄉僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖モ要スルコト攝氏百度以上ノ熱氣ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ涵蒸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其第一法ヲ舉クレハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ乳ヲ穿チテ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿チ寒暖計ヲ挿入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝置タル甚ク簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ設クルヲ得ヘシ而シテ消毒ノ目的ハ充分ニ之ヲ達シ得ルモノナリトス

第三 藥劑

甲 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸 五分  
水 九十五分

第十類 傳染病豫防 付清潔法

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚ク廣シト雖其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ増多スルノ憂アリ故ニ成ルヘシ他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ(例ヘハ石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損シ昇汞水ヲ用フレハ危險ノ虞アル等)其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場合ニノミ使用スヘシ本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後斑點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ構造精緻ノ家屋、貴重ノ物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス

本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ラント要ス

- 一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ
- 二 本品ヲ以テ器具、室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭淨スヘシ
- 三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ水ヲ注キ全量二百分ニ至ラシムヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸五分、水 九百九十四分

昇汞水ハ廉價ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カンカ爲メ本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器、玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若シハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器、糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス

本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲 乙兩種ノ消毒藥ニハ「劇シキ藥ナリ飲ビヘのらす」ト票記スヘシ

丙 生石灰(十倍) 生石灰一分、石灰乳(十倍) 水 九分

生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列刺、腸室扶私等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐瀉物、瀉下物、下水等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良シトス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ澆ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノヲ用フヘシ又石灰乳ニ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘシ用ニ臨テ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰水(即チ鹽化) 格魯兒石灰五分、格魯兒石灰水(二十倍) 水 九十五分

格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥溜、床、床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フ

本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

戊 硫酸若シハ粗製硫酸 同量ノ水ニ溶解シタルモノ

硫酸若シハ粗製硫酸ハ石灰乳、石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池、下水等ノ消毒ニ用フルヲ得  
ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ  
本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト同量ノ本品ヲ注テ攪拌スヘシ  
本品ヲ糞池ニ入ルレハ糞便沸騰シテ溢流スルノ恐アルヲ以テ其糞便多量ナル場合ニハ其幾  
分ヲ他器ニ分テテ各別ニ消毒スルヲ可トシ又本品ハ漆喰敵、金屬製器ヲ損傷スルノ恐アル  
ヲ以テ糞池ノ周邊漆喰敵ナルトキハ消毒ノ際特ニ注意シ又金屬製器ニ容ルヘカラス  
本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取り絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸若クハ粗  
製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

消毒ノ方法

第一 患者

傳染病者治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ浴ヲ取  
ラシムヘシ

第二 死體

傳染病者ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ歛ムヘシ但成ルヘク火葬スルヲ良シト  
ス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病者ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事シタル吏員、人夫等ハ手足ヲ  
石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員、人夫等ハ襟メ爪ヲ剪リ其間ニ汚垢ナキ

様注意シ置クヘシ

第四 患者、死體等運搬器

患者、死體等ヲ運搬シタル担籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周子ヲ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ灌ク  
ヘシ

第五 便所、芥溜、下水等

虎列刺患者ノ吐瀉物、腸管扶私、赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜等  
ニハ少ナクモ糞便ノ量十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水（此用量ハ最低度ヲ示シタルモ  
ノナレハ多キニ過クルハ固ヨリ妨ナシ）ヲ灌キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周子ヲ右ノ  
消毒藥ヲ撒布スヘシ但此消毒法ヲ施行シタル糞池、肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新タニ患者  
ノ吐瀉物又ハ瀉下物ヲ混入セサルトキハ一週間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルモ妨ケナ  
ク又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ケナシ  
虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ吐瀉物ト共  
ニ表面ノ土ヲ掘リ取りテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘク燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒  
藥ヲ撒布スヘシ  
虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布  
シタル後塵芥ヲ盡ク去除キテ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ  
虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌テ能ク攪  
拌シタル後多量ノ水ヲ灌テ疏通セシムヘシ

第十類 傳染病豫防 付清潔法

第六 衣服、器具、疊、敷物等

一 傳染病者ノ着用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飲食器、藥用器、玩具其他患者ノ居室内ニ在リタル諸器具ノ類

一看病人其他病者ニ汚染セル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ従事セル吏員、人夫等ノ着用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等

一 患者ノ居室内ニ用ヒタル疊、席、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ

右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

(一) 蒸熱 消毒スヘキ物品ニ應ジ攝氏百度以上ノ熱源ヲ三十分乃至一時間以上周ネク通セシム

(二) 煮沸 熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス

(三) 石炭酸水浸漬 石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

(四) 昇汞水浸漬 昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

(一) 石炭酸水拭淨 石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス

(二) 乾布拭淨 屢々乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭擦シ其乾布ハ速ニ燒却ス

其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ヲ用フヘカラス木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製器ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、席、絨緞、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル後日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ(例之ハ患者ノ吐瀉物、瀉下物ノ汚濁セルモノ、虎列刺、發疹室扶私、痘瘡患者ノ病室内ニ敷キアリタルモノ、類)ハ燒却スヘシ

第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、敷物ヲ揚ケ(此疊、敷物ノ消毒ハ前項ニ據ルヘシ)室内各部床及床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ(床及床下ニ吐瀉物滲漏セルトキハ石灰乳若シハ格魯兒石灰水ヲ十分ニ撒注スヘシ)掃除後昇汞水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部ヲ叩噴ニ拭淨スヘシ

第八 瀛車

虎列刺患者アリタル瀛車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石炭酸、灰、砂、錫屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ燒却シ車内ノ消毒ハ前項患者居室ノ消毒法ニ準

第十類 傳染病豫防 付清潔法

第九 船舶

スヘシ但車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ  
 傳染病者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先キ人家及ヒ  
 他ノ船舶ニ隔タリタル所ニ廻航セシムルヲ要ス  
 一患者アリタル船舶ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内各  
 部ヲ掃除シ次ニ昇承水又ハ石炭酸水ヲ周テク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ洗淨シ爲  
 シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラ  
 ス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ  
 一患者アリタル室ノ外ト雖モ病毒汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ  
 虎列刺ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ  
 一患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗滌スヘシ  
 一吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ滯留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之  
 ヲ洗滌スヘシ  
 一船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗滌スヘシ  
 ●明治廿三年(十月)訓令甲第六十八號 郡役所、市役所、警察署、警察分署、町村役場  
 麻疹病患者アルキハ本年訓令甲第六十六號傳染病豫防心得書痘瘡部第一條二項三項五項七項  
 乃至十二項及第二條一項三項並第三條前段ヲ適用豫防撲滅ヲ計畫スヘシ  
 但シ明治十八年本廳乙第四十一號達ハ廢止ス

○藥業

●明治廿二年(五月)縣令甲第四十六號  
 明治十六年(四月)甲第四十九號布達賣藥營業人帳簿調製雜形中受賣帳別冊ノ通更正ス

年 月

賣藥仕入帳

何郡何町大字何々何番地  
 賣藥受賣人  
 何 之 某



五月何日	六月何日	計	何藥	何藥	何水	何水	何丹	何丹	何丸
、、、、、	、、、、、	、、、、、	何個	何個	何個	何個	何個	何個	何個
、、、、、	、、、、、	、、、、、	何錢	何錢	何錢	何錢	何錢	何錢	何錢
、、、、、	、、、、、	、、、、、							
、、、、、	、、、、、	、、、、、							
、、、、、	、、、、、	、、、、、							
、、、、、	、、、、、	、、、、、							
、、、、、	、、、、、	、、、、、							
、、、、、	、、、、、	、、、、、							
、、、、、	、、、、、	、、、、、							
、、、、、	、、、、、	、、、、、							

●明治廿三年(一月)縣令甲第五號

賣藥營業人ハ賣藥印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ナシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

- 一 印紙賣渡ノ年月日
- 一 印紙ノ種類枚數
- 一 賣捌人ノ氏名住所

●明治廿三年(一月)縣令甲第六號

明治十九年(七月)本廳甲第三百二十四號賣藥印紙買入鑑札ハ自今廢止ス

●明治廿三年(二月)縣令甲第十七號

藥種商并製藥者取締細則左ノ通相定メ來三月一日ヨリ實施ス

但明治十四年(七月)甲第三百三十九號布達藥舖藥品商規則明治十八年甲第百八十三號布達製藥手續ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

藥種商并製藥者取締細則

- 第一條 藥種商并製藥者ヲラントスル者ハ本縣ニ願出免許鑑札ヲ受ヘシ
- 第二條 藥種商并製藥者免許鑑札下付願ニハ族籍住所氏名生年月ヲ詳記シ歷履書ヲ添フヘシ
- 第三條 藥種商并製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ族籍氏名ヲ變換スル等鑑札面ニ異動ヲ生シタルトハ其事由ヲ記シ書換願出スヘシ
- 第四條 藥種商并製藥者廢業又ハ死亡若クハ他府縣ニ轉籍寄留スルトハ鑑札ヲ添へ管内轉籍



寄留等ノキハ鑑札番號ヲ記シ十日以内ニ届出ヘシ

第五條 藥種商并製藥者ニ於テ支店ヲ設クルハ十日以内ニ届出ヘシ其移轉廢止ノキ亦同シ

第六條 藥種商并製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用品外藥品トヲ區別シ置クヘシ

第七條 藥種商并製藥者ハ店頭ニ左記ノ看板ヲ掲クヘシ

際曲尺三尺

本縣免許

藥種商

郡市町村番戶

製藥者 何 誰

第八條 藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ數容器ニ分ツキハ其分ナル容器ニ製藥者(藥品製造會社ナレハ其所在地名及社名)若クハ外國藥品引取人住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ

但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルヲ得ス

第九條 藥種商ニ於テ數容器ニ分ナル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其ノ容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

但衛生試驗所ノ検査印紙ヲ貼付シタル者ハ此ノ限ニ非ス

第十條 藥種商并製藥者ニ於テ使用スル封緘用印紙ニシテ衛生試驗所ノ検査印紙ニ紛ハンキ

廿四年二月

月縣令甲

第十四號

第十一條第

十一條第

改正ス

廿三年縣

令甲第廿

號ヲ以テ

二條中七

條ノ二

字

ヲ削

ル

モノハ改訂セシムルヲアルヘシ

第十一條 製藥者ハ毎年末一ケ年間製造セシ藥品ノ量目名ヲ統計シ製表ノ上翌年一月卅一日

限リ差出スヘシ

第十二條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營マントスル者ハ第一條

ノ免許鑑札ヲ受クルニ及ハスト雖モ第二條ニ準シ届出第六條第七條第八條ノ本文第九條第

十條第十一條ヲ遵守スヘシ

第十三條 願何届等ハ總テ那市役所經由スヘシ

第十四條 本則第六條第八條第九條ニ違背シタル者ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處シ第十條

ノ命令ニ遵ハサルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十五條 従前内務省ヨリ製藥免許鑑札ヲ受ケタル者ト雖モ明治廿三年二月廿八日限リ本則

ニ據リ更ニ本廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十六條 本則施行以前本廳ヨリ下付シタル藥品商免許鑑札ヲ受ケタル者ハ藥種商タルノ効

チ有ス

●明治廿三年(二月)縣令甲第二十號

明治廿三年(二月)縣令甲第十七號藥種商并製藥者取締細則第十二條中第七條ノ三字ハ衍

●明治廿三年(二月)訓令甲第十五號 郡役所 市役所 町村役場

藥劑師ハ明治廿二年(三月)法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第八條藥種商製藥者ハ明治二

十三年(二月)縣令甲第十七號藥商並製藥者取締規則第四條ニ據リ届出ル廢業又ハ死亡届書ニハ其年月日族籍氏名並免狀番號ヲ詳記スヘシ

●明治廿三年(二月)縣令甲第十九號

明治廿二年(十一月)縣令甲第五百五十號格魯兒酸加溜漢賣買授受届ニ關スル件左ノ通改正ス  
格魯兒酸加溜漢(鹽素酸加溜漢又ハ鹽酸加里)ヲ賣買授受スル時ハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ雙方連署ノト賣主授主ノ管轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ但醫師藥劑師藥種商製藥者間ニアリテハ此限リコナス

普通人民ニシテ醫師藥劑師藥種商製藥者ト前項ノ藥品ヲ賣買授受スル時ハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的(醫師藥劑師藥種商製藥者ニ賣渡又譲渡ノ場合ヲ除ク)并ニ對手人ノ族籍住所氏名ヲ記載シ賣主授主ノ管轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ  
警察官吏ハ臨時現品ヲ檢査スルコトアルヘシ  
前二項ノ手續ニ違背シテ賣買授受シタル者ハ一回以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

●明治廿三年(二月)訓令乙第四號

賣藥營業者免許鑑札下付及廢業者免許鑑札返納ノトキハ直チニ其地收稅部出張所ヘ通報スヘシ

●明治廿三年(二月)訓令甲第十號

明治十九年(十二月)訓令甲第六十七號醫師組合手續ニ倣ヒ藥業組合ヲ設ケ來ルル四月三十日限

郡 市 役 所

郡役所 市役所 町村役場

●明治廿三年(二月)諭達第二號

外國輸入之賣藥ヲ販賣セントスル者ハ自己調製ノ賣藥ト同ク賣藥規則第二條ノ規定ニ據ルヘキハ勿論賣藥印紙稅規則ニ據リ印紙貼用スヘキ等ニ付心得違無之様注意スヘシ

●明治廿三年(六月)訓令甲第四十二號

明治廿二年(三月)法律第十號藥品營業并藥品取扱規則第廿六條及第廿七條ノ義ハ素ト醫療ニ供用スヘキ藥品ニ適用スル精神ニ出タルモノニ付左記ノ如キ藥品ハ該兩條ニ依ルヘキモノニ非ス  
但毒藥劇藥ニ係ル片ハ該規則各條ニ依リ取扱フヘキハ論ヲ須タストス

一 製藥原料藥品

藥局製劑(例之ハ水劑、硬膏劑、越巖斯葛拉屈萬劑、揮發油類、丸劑、舍利別劑、丁幾丟兒劑、錠劑、軟膏劑、酒劑、浸劑、擦劑、紙劑、臨時可製藥等)ヲ除ク

一 繪具染料用

一 香油香水等製造用

一 飲食物用

一 工職用、化學試驗用

一 外國輸出藥品

●明治廿三年(十月)縣令甲第八十一號

明治廿年(十二月)縣令甲第八十號賣藥規則外製藥販賣取締規則第一條中齒磨粉、鉄漿水、齒

黒粉ノ三種ヲ删除シ八種ヲ五種ト改正ス

○鑛泉浴場

●明治廿二年(七月)縣令甲第九十二號  
本年(四月)縣令甲第三十六號鑛泉浴場取締規則第九條浴客人名簿ヲ製シノ下一泊以上ノ浴客ノ八字ヲ加ヘ其ノ一字ヲ刪ル

○衛生雜

●明治廿三年(二月)訓令甲第十二號  
郡役所 市役所 町村役場  
明治廿一年(四月)法律第一號ヲ以テ市制町村制公布コ付自然明治二十年(二月)縣令甲第三十三號衛生組合規則ハ消滅ニ屬シタルヲ以テ更ニ市町村ニ於テ左ノ項目ヲ實行スル便宜ノ方法ヲ設ケ來ル五月三十一日限り本廳ヘ届出認可ヲ受クヘシ  
一家屋飲料水ヲ改良スルコト  
一家屋道路下水溝圃圃芥溜等ノ清潔法ヲ實行シ埋火葬場等ヲ改良スルコト  
一傳染病豫防施行ノコト  
一傳染病ニ罹リタルトハ相互ニ隱蔽等ノ所爲アラサルコト  
一貧困患者ヲ救護スルコト  
●明治廿三年(四月)訓令甲第二十八號  
郡役所 市役所 町村役場

廿三年訓令甲第廿八號ヲ以テ市町村以下改正ス

明治廿三年(二月)訓令甲第十二號本文中市町村ニ於テノ下五月三十一日限り左ノ項目ヲ實行スル便宜ノ方法ヲ設ケヘシト改ム  
●明治廿三年(二月)告示第廿九號  
明治廿二年(三月)法律第十號監視員藥品巡視ノ際携帯スル証票左ノ如シ  
曲尺二寸二分

表 藥品監視員ノ証

新 潟 縣

新 潟 縣

廳 印

●明治廿三年(十二月)縣令甲第九十二號  
衛生資本金保管條例縣會ノ議決ヲ經左ノ通相定ム

衛生資本金保管條例

第一條 本資金ハ知事之ヲ管理スルモノトス  
第二條 本資金及ヒ之ヨリ生スル利子ハ公債證書ニ換ヘ蓄積保存スルモノトス  
第三條 本資金ハ衛生上一般緊急ト認ムル事アルキハ縣會ノ議決ニヨリ臨時支出スルコトアルヘシ

○第十一類

○會計

○通則

●明治廿三年(四月)告示第四十九號  
 明治十九年(十一月)告示第二百五號ヲ以テ本縣ノ仕拂金ニ對スル受領書宛名ノ義告示候處來ル四月一日以後知事宛ニテ差出スヘシ

●明治廿三年(九月)縣令甲第七十二號  
 本年(九月)大藏省令第二十一號ヲ以テ諸証書ノ金員數字々體定メラレタルコト付テハ地方稅其他モ同様心得ヘシ

○俸給

●明治廿二年(十月)縣令甲第四百十三號  
 明治二十年縣令甲第七十四號小學校長訓導俸給及任免規則第一條尋常師範學校卒業生ノ下四十圓以下十圓以上トアルヲ(男子四十圓以下十圓以上女子三十圓以下七圓以上)ト改正ス

●明治廿三年(九月)訓令乙第四十三號  
 本廳、郡役所、監獄、新潟縣尋常師範學校、新潟縣農學校、新潟測候所(檢)(廳)棧院  
 備員以下給料支給規則左ノ通り本年十月一日ヨリ改正ス

廿三年十月廿八日訓令乙第四十八號第一條ヲ改正ス  
 一月廿五日訓令乙第五十號第三條ヲ增補ス

備員以下給料支給規則

第一條 備員月給ハ判任官俸給支給ノ定日其ノ他ハ總テ毎月盡日之ヲ支給ス  
 但解僱又ハ死去ノ者ハ其ノ時々支給スヘシ

第二條 新タニ備員ノ者ハ事務ニ就キタル當日ヨリ日割ヲ以テ支給スヘシ

第三條 月給備員(警察監獄ニ從事スル地方稅支辨ノ者ヲ除ク)ノ者解僱又ハ死去ノ時ハ該月分ハ全額ヲ其他ハ總テ其當日マテ日割ヲ以テ支給スヘシ

第四條 増給減給ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ日割ヲ以テ支給スヘシ

第五條 月給備員ノ者病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ踰ユルモノハ月給半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹ルモノ及賜暇休養ノ者ハ此限ニアラス

第六條 前條ノ外私事ノ故障(警察監獄ニ從事スル地方稅支辨ノ者ヲ除ク)ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルモノハ月給ノ半額ヲ減ス

第七條 本則第六條ノ場合ト第五條ノ場合ト相續テ起ル時ハ其日數ハ總テ前後ヲ通算ス但第六條ノ期限ヲ過キ已ニ減俸ノモノ第五條ニ移ルモノ本俸ニ復セス

第八條 賜暇忌引ノ場合ト第五條若クハ第六條ノ場合ト連續スルハ其賜暇忌引ノ日數ヲ扣除ス

本則第五條若クハ第六條ノ期限ヲ過キ已ニ減俸ノモノ賜暇忌引ニ連續シ其賜暇忌引後直ニ上應スル者ハ該賜暇忌引ノ日ヨリ本俸ヲ支給スルモノトス但賜暇忌引ヲ過キ尙ホ上應セサル片ハ總テ減給ス

第九條 日割計算ノ法ハ勤日數ニ月給額ヲ乘シ其ノ月ノ現日數ニテ除スヘシ俸給ヲ支給スル

第十一類 會計 通則 俸給

ニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スル片ハ之ヲ切捨トス

第十條 日給雇門番給仕小使ノ類ハ一般休日ノ外欠勤ノ日間ハ總テ給料ヲ支給セス

第十一條 警察及監獄ニ從事スル傭員(地方税ニ限ル)ニシテ明治十九年内務省令第廿三號巡

査監守俸給支給規則第三條第四條第五條ノ場合ニ於テハ渾テ全條ニ依リ支給スヘシ

●明治廿三年(十一月)訓令乙第五十五號 本廳、直稅分署、間稅分署、郡役所、監獄署

新潟縣尋常師範學校、新潟縣農學校、新潟

縣測候所、檢、驅、棧院

本年(九月)訓令乙第四十三號傭員以下給料支給規則第三條括弧中監獄ノ下(檢驅)棧院ノ四字

ヲ追加ス

●明治廿三年(十月)訓令乙第四十八號 本廳、郡役所、元收稅部出張所、監獄署、新

潟縣尋常師範學校、新潟縣農學校、新潟縣

測候所、(檢驅)棧院

本年(九月)訓令乙第四十三號傭員以下給料支給規則第一條左ノ通り改正ス

第一條 月給及日給支給ノ定日ハ毎月盡日トス

但シ解雇又ハ死去ノ者ハ其ノ時々支給スヘシ

○ 出 納

●明治廿二年(六月)訓令甲第四十六號

市役所 町村役場

市役所町村役場金錢及ヒ物品出納簿記式ハ從前區役所又ハ戶長役場ニ於テ取扱來リタル例ニ

準據シ費目ハ適宜更正スルヲ得

●明治廿二年(九月)訓令乙第四十四號 郡 役 所

本年(九月)内務省訓令第三十六號ヲ以テ物品出納規程別紙ノ通被定候ニ付テハ國庫支弁ノ物

品ハ總テ右ニ據リ取扱フヘシ

(別紙内務省訓令第三十六號(二十二年九月七日)ハ略ス)

●明治廿二年(十二月)訓令乙第五十一號 本縣第一二部、警察本部、郡役所、監獄、

新潟縣尋常師範學校、新潟縣農學校、新

潟測候所、檢(驅)棧院

地方費ニ屬スル物品出納規則別冊之通相定ム

物品會計規則

第一章 總 則

第一條 此規則ニ於テ物品ト稱スルハ地方費ニ屬スル器具器械消耗品動物其他一切ノ動産ヲ

云フ

第二條 物品ノ會計ハ現ニ其出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ區分ヲナシ毎年四月一日ヨリ

翌年三月三十一日迄ヲ一年度トス

第三條 此規則ニ於テ部所長ト稱スルハ本廳第一二部警察本部ニ於テハ部長郡役所ニ於テハ

郡長新潟監獄ニ於テハ典獄若クハ副典獄學校ニ於テハ校長各地監獄ハ首席者新潟測候所ニ

於テハ所長(檢驅)棧院ニ於テハ院長ヲ云フ

第四條 此規則ニ於テ物品會計主任ト稱スルハ本廳第一二部警察本部ニ於テハ各課長警察署以下ニ於テハ主計課長郡役所各監獄學校新瀉測候所ニ於テハ會計主任書記(檢驅)棧院ニ於テハ事務掛ヲ云フ但代理官ヲ置クノ必要アル時ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 物品ヲ保管シ之レカ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計主任トス

第六條 物品會計主任ハ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタル時ハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第七條 總テ部所長ノ判決ナクシテ物品ヲ購入又ハ納拂スルコトヲ得ス

第八條 毎年一二回若クハ物品會計主任變更ノ時ハ部所長ニ於テ檢査ノ官吏ヲ命ジ檢査ヲナサシムヘシ

第二章 物品出納 帳簿

第九條 第一條ニ定ムル諸品ヲ分ツテ備品消耗品ノ二種トシ備品消耗品ノ區別ハ従前ノ例ニ依ル但動物又ハ特ニ使用ノ目的アルモノ(何々器械農具工具ノ類)ハ其區分ニ據ル

第十條 部所長ハ常用物品中備品ハ其種類品目若クハ定數保存年限ヲ消耗品ハ其種類品目ヲ豫メ規程シ置キ其規程内ノ物品ニシテ金額五百圓未滿ノ物品ハ直ニ購入スルコトヲ得但購入ノ方法ハ第十二條ノ例ニ據ルヘシ

第十一條 規程品内譯表ハ左項ニ據リ調製スヘシ

第一類品ハ保存年限ヲ設クルモノ但參考ノタメ現在ノ數量ヲ朱記スヘシ

第二類品ハ定數ノミヲ設ケシモノ

第三類品ハ保存年限ト定數トヲ設ケシモノ

第四類品ハ無定數無年限ノモノ但參考ノ爲メ現在ノ數量ヲ朱記スヘシ

第五類品ハ消耗品ノ品目ヲ掲シヘシ

第二項 部所長ハ前項ニ據リ規程品内譯表ヲ製シ此規則施行期日(各監獄ハ典獄若クハ副典獄(檢驅)棧院ハ衛生課長ニ於テ取總メ意見アルモノハ具狀スヘシ)前知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 前條制限外ノ物品ハ知事ノ認可ヲ受クルコアラサレバ購入及出納スルコトヲ得ス

第十二條 總テ物品ヲ購入セントスル時ハ物品購入判決簿ニ品目數量使用ノ概略ヲ摘記シ物品會計主任檢印ノ上部所長ノ判決ヲ受ケ買入方ハ第四章入札法ニ據ルヘシ

第十三條 凡テ物品ヲ購入シタル時ハ物品上納証書ニ照合シテ之ヲ受領シ其上納証書ハ部所長ノ認印ヲ受ケ記帳スヘシ

第十四條 總テ物品ヲ請求スルニハ需用者ニ於テ物品請求簿ニ品目數量使用ノ概略ヲ記載姓名捺印シ物品會計主任ニ差出シ該主任ハ必需ノ當否ヲ精査檢印シ部所長ノ判決ヲ受ケ物品ヲ交付シ直ニ領收証書ヲ徴スヘシ

第十五條 消耗品ノ内薪炭油ノ如キ日々支消スル物品ハ一週乃至二週間ノ需用高ヲ概算シ假渡ヲナスコトヲ得

第一項 物品概算請求簿ヲ備置キ第十四條ノ例ニ準シ假渡ヲナスヘシ

第二項 前項假渡ノ物品本拂ノ通知ヲ受クル時ハ前回渡ノ殘品ヲ精査シ該精算額ハ更ニ  
 第十四條ノ手續ヲ了シ最前ノ假證書ヲ返附スヘシ  
 第十六條 前各條ノ物品受領証書ハ品目數量使用ノ概略ヲ摘記シ各自專用品ハ各自共用品  
 ハ物品會計主任ヨリ差出スヘシ  
 第十七條 土木工事等ニ要スル物品ハ總テ該工事擔當者ニ於テ豫メ証書ヲ以テ現品ヲ受領シ  
 每一ヶ月ノ仕拂高ヲ翌月十日以内ニ物品會計主任ニ報告シ工事竣工ニ至レハ其日ヨリ十日  
 以内ニ決算ヲナシ殘品ハ同時返納ノ手續ヲナスヘシ  
 第十八條 前條出張先ニ於テ使用ノ築品類ハ每品受拂簿ヲ備置キ日毎ノ受拂ヲ明記スヘシ  
 第十九條 物品會計主任ハ築品假渡簿ヲ備置キ各工場毎ニ各品部門ヲ分テ第十七條ノ証書及  
 報告書ニ據リ記帳シ他日精算帳ト照合ノ上決算ヲナスヘシ  
 第二十條 總テ出張先ニ於テ使用スル器具器械類ハ証書ヲ差出シ攜帶スヘシ  
 第二十一條 物品會計主任ハ備品貸附簿ヲ備置キ前條証書ニヨリ記帳ノ上物品ヲ貸與シ他日  
 返納ノ時ハ頭末ノ區ヘ其旨ヲ記入シ最前ノ証書ハ返付スヘシ  
 第二十二條 交付シタル物品中不用又ハ毀損(故意怠惰ニアラスシテ)ノ爲メ還納アル時ハ返  
 納書及証明書(毀損品等ト)照合シ部所長ノ檢閲ヲ經テ之ヲ受領シ領收証書ヲ發スヘシ  
 第二十三條 物品出納整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備置キ納拂ノ都度記帳スヘシ  
 備品出納簿  
 每品部門ヲ分テ數量價格一個ノ代價購入及修繕收支ノ年月日離權ノ事由納入拂受人等

ナ詳記スヘシ但毀損品修繕品賣却品ハ該部門ヲ分テ每品分別スルニ不及  
 消耗品出納簿  
 每品部門ヲ分テ數量代價收支ノ年月日納入及交附先ノ課名若シハ人名ヲ記帳スヘシ  
 動物及築品其他ノ出納簿記入方ハ前二項ニ準據スヘシ  
 概算簿  
 毀損亡失品書留簿  
 修繕品書留簿  
 賣却品書留簿  
 以上各種ノ帳簿ハ毎年度新設ス  
 備品現在簿  
 備品內譯簿  
 以上二種ノ帳簿ハ各年度ヲ通シテ用フ  
 第二十四條 第二十二條ノ不用又ハ毀損品ハ品目數量事由納先ノ課名若シハ人名等ヲ備品出  
 納簿備品現在簿備品內譯簿ニ詳記シ其毀損セシモノハ毀損亡失品書留簿ニ記入スヘシ  
 第二十五條 毀損品ノ内修繕シ得ヘキモノハ修繕品判決簿ニ品目數量ヲ記載物品會計主任檢  
 印シ部所長ノ判決ヲ受ク入札ヲ以テ修繕セシムヘシ  
 第二十六條 修繕ノ爲メ物品ヲ支出シタル時ハ備品出納簿及修繕品書留簿ニ記入シ修繕費ノ  
 時ハ上納証書ニ照合受領シ該上納証書ハ部所長ノ認印ヲ受ク記帳スヘシ  
 第十一類 出納  
 四百六十九

廿三年八月廿九日  
訓令乙第廿七條  
改但書ヲ加ス

第二十七條 毀損品ノ内修繕シ得ヘカラサルモノ及不用ノ物品ハ部所長ノ檢閲ヲ經テ入札ヲ以テ賣却スヘシ

但見積價格二百圓以上ノモノハ知事ノ裁定ヲ請フヘシ

第二十八條 前條物品拂受人ヘ交付ノ時ハ要領証書ヲ徴シ賣却品書留簿及物品出納簿ヘ數量代價拂受人名等ヲ詳記スヘシ

第二十九條 第二十四條ノ毀損品中修繕品又ハ賣却品書留簿ヘ轉記セシモノハ各其顛末ノ區ヘ事由ヲ詳記スヘシ

第三章 保管 責任

第三十條 貯藏ノ物品及共用ニ係ル物品ハ物品會計主任各自專用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ

第三十一條 物品會計主任ハ各自ヘ交付シタル物品ト雖モ取締上ニ關シテハ總テ監督ノ任アルモノトス

第三十二條 貯藏ノ物品ハ鎖鑰アル場所ニ納入シ每品區畫ヲ嚴正シ且物品入記ヲ備置キ出入毎ニ必ス之ヲ訂正スヘシ

第三十三條 前條物品貯藏ノ場所ハ物品會計主任若シハ物品會計主任ノ委任シタルモノノ臨場アルニ非カレハ開閉スルコトヲ得ス且其鍵ハ物品會計主任便宜之ヲ保管スヘシ

第三十四條 第三十條ノ保管ノ責アルモノ其物品ヲ故意若クハ怠惰ニ由リ亡失毀損シタルトキハ之ニ對スル相當ノ代價ヲ辨償セシムヘシ

廿三年八月廿九日  
訓令乙第廿八條  
改但書ヲ加ス

第三十五條 直接ニ保管ノ責ナキモノト雖モ故意怠惰ニ由リ物品ヲ亡失毀損シタル時ハ仍ホ前條ニ據ル

第三十六條 前二條ノ場合ニ於テハ其顛末ヲ詳細取調知事ノ裁定ヲ請フヘシ

第三十七條 第三十四條第三十五條ノ場合ニ於テ故意怠惰ニアラスシテ物品ヲ亡失毀損シタル時ハ本人ヨリ証明書ヲ差出スヘシ

第四章 入札法

第三十八條 工事及物件ノ賣買貸借等ハ總テ明治廿二年(二月)法律第四號會計法第二十四條及同年(五月)勅令第六十號會計規則第七章ニ準據スヘシ

第五章 月計表 計算表

第三十九條 物品會計主任ハ毎月出納シタル物品ノ數量價格ヲ記シタル月計表ヲ製シ翌月十日以内ニ部所長ノ閱覽ニ供スヘシ

第四十條 物品會計主任ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテノ間ニ出納シタル物品ノ計算書ヲ製シ四月三十日マテニ進達案一同部所長ニ差出スヘシ

第四十一條 前條計算書ニハ左ニ掲グル証憑書類ヲ添付スヘシ但左項ニヨリ每品ノ証憑ヲ區分シ該表紙ニ証書ノ枚數品目數量等ヲ明記スヘシ

- 一 物品上納証書
- 二 物品領收証書
- 三 毀損亡失品証明書



四 賣却品領收証書

第四十二條 都所長ハ前二條ノ書類ヲ受クシテハ檢査ノ官吏ヲ命ジ詳細檢査セシメ左項ノ書類  
一同五月二十日迄(各監獄ノ分ハ典獄若クハ副典獄(檢廳)稟院ノ分ハ衛生課長ニ於テ取經  
メ意見アルモノハ具狀スヘシ)ニ進達スヘシ

一 物品出納計算書其他証憑書類ノ件名冊數

二 物品出納計算書ノ現在高ト其現品ト符合ヲ認メタル保証

三 計數正確ノ保証

第六章 出納檢査

第四十三條 臨時檢査官ヲ派出セシメ出納一切ノ事ヲ檢査セシム

第四十四條 檢査官ハ檢査上必要ト認ムル時ハ如何ナル書類ト雖モ檢閱スルコトアルヘシ

第四十五條 檢査官ハ記帳ノ式ニ違フモノアル時ハ直ニ更正セシムルコトアルヘシ

第四十六條 檢査上萬一違例ノ出納ト認ムルモノアル時ハ詳細ノ手續書ヲ徴サシム

第七章 雜則

第四十七條 生産ニ係ル物件若クハ他ノ成例ノ爲メ此規則ニ準據シ難キモノアル時ハ特ニ知  
事ノ認可ヲ經テ特別規則ヲ設クルコトヲ得

第四十八條 此規則ハ明治廿三年二月一日ヨリ實施スヘシ

第四十九條 物品出納上ニ關スル從前ノ令違ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

參 考 書

一 左記ノ物品モ規則第一條ノ範圍トス

書籍 新聞 雜誌 諸帳簿 郵便電信切手

營繕工事用木石材 敷物 硝子板 釘等ノ類

一 規則第十條物品ノ類別並ニ保存年限ハ内務省ニ於テ指定セシモノヲ以テ本廳國庫部ノ  
物品ハ別表ノ通り定メタリ

一 初年ヨリ連年ノ新調ニシテ到底毎品新調年月ヲ分別スル不能モノハ假令ハ郡役所ニア  
リテハ明治十二年ヨリ廿一年迄ヲ平均シ六ケ年ヲ經過ノ年數ト見做シ計算スルモノト  
ス

一 前項ノ部類ニシテ假令ハ明治十二年同十三年同十四年ト三ケ年各若干數ノ新調品アリ  
之レカ區分難相立場合ニハ平均經過年數九年ト見做シ計算スルモノトス

一 保存年限ヲ經過セシ物品ト雖モ實際尙ホ使用ニ耐ユルモノハ更ニ相當ノ保存年限ヲ指  
定スルモノトス

一 用紙其他ノ物品ニシテ品質ヲ異ニセサルモノハ便宜集合スルモ妨ケナシ假令ハ内山紙  
十三行全十行全八行ノ各野紙ヲ單ニ内山野紙トスルノ類



第十一類 出納

第 貳 類		第 貳 類	
品 種	定 數	品 種	定 數
	供用準備		供用準備
ボツケート 七セキ	1	大形斷物庖丁	2
雙 眼 鏡	2	小形斷物庖丁	2
鍍チヤパン度	2	燒 鑊	1
鍍メートル	2	宛 木	4
鍍ヒート	3	火 入	22
水 繩	2	銅 藥 罐	1
測 竿	2	庖 丁 研	1
フランパーブ	3	七 合 入 湯 沸	51
ヒ	24	五 合 入 湯 沸	78
スケール	9	製 圖 用 筆	1
スケール	4	比 例 渾 發	1
オフセット	3	寒 暖 計	3
烏 口	15	凝 油 德 利	6
文 鎮	18	六 尺 竿	1
鉄 昆 爐	1	經 緯 儀	1
鑊ノ耳皿	1	黒 塗 眞 盆	8
大 蒸 發 皿	1	木 地 眞 盆	2
小 蒸 發 皿	2	割 渾 發	1
アルコールランプ	1	鉄 炭 撥	1
硝子フラスコ	1	笠	9
バランス	1	下 駄 箱	2
グラム量	1	瀬 戸 キンカクシ	2
硝子グラム量	1	瀬 戸 朝 顔 油	1
硝子八弓量	1	長 持 桐 油	2
硝子漏斗	2	桐 油	7
シリンドル	1	馬 車 桐 油	1
アルコールランプ	1	置 燧 爐 臺	4
廣口試薬壺	12	燧 爐 用 三 道 具	4
細口試薬壺	13	燧 爐 前 敷	4
白金線	1	簿 記 箱	11
速寫板製造器	2		

四百七十七

第 三 類		第 三 類			
品 種	保 存 年 限	定 數	品 種		
	供用準備	保 存 年 限		定 數	
燧 爐	5年	4	圖 引 卓 子	40年	1
小倉張椅子	8ク	16	半 卓 子	25ク	1
簿 記 臺	5ク	2	簿 記 卓 子	25ク	8
圖 引 器 械	14ク	5	大 卓 子	40ク	5
高等官卓子	15ク	3	大 藥 壇 棚	25ク	1
赤小倉張椅子	8ク	1	遙 拜 用 卓 子	25ク	1
形付綿張椅子	8ク	2	硝 子 戸 戸 棚	25ク	2
丸 卓 子	25ク	3	机	25ク	1
小豆皮張椅子	13ク	39	馬 車	20ク	2
木桐丸形時計	20ク	3	鞭	3ク	1
登 人 卓 子	25ク	72	乘 馬 具	15ク	2
貳 人 卓 子	40ク	121	繪 具 入 鉄 葉 筒	ク	1
唐 綾 張 椅 子	8ク	2	籐 張 椅 子	8ク	265
八 角 時 計	20ク	14	雜 巾 桶	ク	3
呼 鐘 器 械	4ク	5	速 寫 版	4ク	10
天 鷲 張 椅 子	17ク	2			
帽 子 掛	30ク	4			
繪 圖 臺	40ク	2			
小形圖引器械	14ク	1			
弓 張 提 灯	14ク	36			
高 張 提 灯	14ク	2			
五 巾 蒲 團	5ク	6			
四 巾 蒲 團	5ク	8			
三 巾 蒲 團	5ク	7			
貳 巾 半 蒲 團	5ク	2			
夜 蚊 帳 具	5ク	3			
蚊 帳	20ク	4			
大形一人卓子	25ク	1			
丸形小時計	20ク	1			
垢 取	2ク	7			
圖 引 板	40ク	2			

四百七十六

第十一類 出納

第一類			第二類		
品 種	保存 年限	定 數	品 種	定 數	
				供用	準備
長持	45年	5	腰掛	5	10
桐大長持	45年	13	冠蓋書箱	13	
中形箆	50年	1	刻蓋書箱	1	
小形箆	50年	2	繪圖箱	2	
木置戸	30年	10	大狀箱	10	
擔桶	50年	13	小狀箱	13	5
手桶	4年	2	黑塗小狀箱	2	
片手桶	4年	2	呼塗大狀箱	2	
洗桶	4年	1	黑塗大狀箱	1	
湯沸持運臺	4年	15	卓子	15	
提十能入	7年	7	小茶碗	7	
石炭	6年	16	茶碗	16	
荷車	7年	20	茶碗	20	
木梯	20年	1	錠付定箱	1	
石版印刷器械	50年	27	算盤	27	
糊桶	4年	23	印箱	23	
速寫板製造用桶	4年	6	黑肉	6	
水桶	4年	27	朱印	27	
雜巾桶	4年	2	日本形秤	2	
掃除桶	4年	5	中狀箱	5	
水汲器械	4年	2	硯木箱	2	
飼桶	3年	25	硯木箱	25	
辨當持運箱	3年	6	書架	6	
			尺	1	
			尺	5	
			尺	2	6
			繪具	3	
			打木	2	
			小刀	3	
			小鉢	1	
			鉢	1	

四百七十九

第三類			第四類		
品 種	定 數	品 種	定 數		
			供用	準備	
大硯	1	毛拂	2		
コヒー茶碗	12	消毒籠	1		
水呑コップ	9	檢乳器	1		
水差	1	輕便檢乳器	1		
パソ皿	12	炭酸瓦斯試檢器	1		
ブトコップ	12	攝氏液體溫度器	1		
スプーン	12	攝氏驗溫度器	1		
フォーク	12	硝子棒	2		
ナイフ	12	砂皿	1		
大庖丁	1	顯微鏡	5		
二俣	2	度量衡刻印	3		
平菓子皿	1	船燈刻印	3		
小形提箱	1	小方儀	3		
朱肉付印箱	2	小鉄方	4		
グラム秤	8	壹合樹	1		
毛布	4	傘合	3		
靴用土搔キ	4	分度器	7		
靴マット	4	分度器	1		
五頭ランプ	2	石油出器	1		
十能鉢	1	石祭	2		
半土鉢	2	ハレ	1		
丸行燈	4	刷毛	5		
馬車用ケット	5	張葛	3		
水瓶	4	銅鹽杓	1		
水瓶	1	銅柄	3		
瓶	1	銅柄	2		
馬車引道具	2	鉄火	1		
馬車上履	2	炭盆	117	50	
マッパ	2	印	1		
毛切	2	中	1		
金櫛	2	反	2		

四百七十八



第二類品																			
品目	何課若ハハ	準備品	應接所	人民扣	湯吞所	合	計	腰掛	冠蓋書箱	圖箱	狀箱	印箱	何地掛	煖爐前敷	同三ツ道具臺共	卷尺共	何帳簿共	何々々	
何課若ハハ	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
準備品	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
應接所	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
人民扣	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
湯吞所	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
合	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
計	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
腰掛	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
冠蓋書箱	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
圖箱	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
狀箱	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
印箱	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
何地掛	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
煖爐前敷	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
同三ツ道具臺共	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
卷尺共	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
何帳簿共	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
何々々	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

第三類品

品目	保存全經過全殘何課若ハハ	準備品	應接所	人民扣	湯吞所	合	計
革張木材	二〇	、	、	、	、	、	、
椅子黒塗	六	、	、	、	、	、	、
唐天張	一三	、	、	、	、	、	、
椅子	六	、	、	、	、	、	、
大形角卓	四〇	、	、	、	、	、	、
中形角卓	四〇	、	、	、	、	、	、
二人卓	二五	、	、	、	、	、	、
一人卓	二五	、	、	、	、	、	、
簿記卓	二五	、	、	、	、	、	、
簿記臺	二五	、	、	、	、	、	、
何々々	、	、	、	、	、	、	、
何々々	、	、	、	、	、	、	、
何々々	、	、	、	、	、	、	、
準備品	、	、	、	、	、	、	、
應接所	、	、	、	、	、	、	、
人民扣	、	、	、	、	、	、	、
湯吞所	、	、	、	、	、	、	、
合	、	、	、	、	、	、	、
計	、	、	、	、	、	、	、







物品上納證書

一何

々

何程

此代金何程

但壹個ニ付金何程

右 上納仕候也

何町何番地

明治何年何月何日

何

誰印

物品會計主任

官 姓 名 殿

自明治何年何月何日  
至明治何年三月卅一日

### 物品請求簿

廳 校 名





證	何	何
一何々々	何	程
但事由		
右返納候也		
明治何年何月何日	返納入	何ノ誰印
物品會計主任官姓名宛		

自明治何年何月何日  
至明治何年三月卅一日

備品(消耗品)出納簿

廳校名

























明治何年度

物品出納計算書

- 一 物品會計主任變更等ニテ一年度ヲ通セサルモノハ何年度トアルナ何年月何日ヨリ何月何日迄トスヘシ
- 二 月計表ニハ何年度トアルナ何年月何日中トスヘシ
- 三 代金ノ内越高ノ分ニ於テ買入代價ノ判然セサルモノハ見積代價ヲ付スヘシ

校 廳 名

●明治廿三年(八月)訓令乙第三十八號

本廳、郡役所、監獄、新潟縣尋常師範學校

二十二年(十二月)訓令乙第五十一號地方費ニ屬スル物品會計規則第三十八條(左ノ但書追加

新潟縣農學校、新潟測候所、(檢驅)棧院

但公債証書ノ賣買ニ限リ時價ヲ以テ隨意契約ヲナスコトヲ得

●明治廿三年(八月)訓令乙第三十九號

本廳、郡役所、監獄、新潟縣尋常師範學校

明治廿二年(十二月)訓令乙第五十一號物品會計規則第二十七條但書左之通改正ス

新潟縣農學校、新潟測候所、(檢驅)棧院

但見積價格貳百圓以上ノモノ并ニ歳入豫算外ノモノハ總テ知事ノ裁定ヲ請フヘシ

●明治廿三年(四月)訓令乙第二十四號

郡 役 所

徴兵費、窮民恤救、乘兒養育米代ノ現金前渡仕拂方ヲ委任ス

●明治廿三年(四月)訓令乙第二十五號

本廳(收稅部ヲ除ク)郡役所

明治十九年(三月)内甲第二〇號歳出取扱手續ヲ廢シ更ニ別冊ノ通相定ム

歳出請求手續

第一條 毎歳豫算中管内外旅費ニ限リ前々年度以前三ヶ年ノ實費ヲ標準トナシ派出ノ用務旅費ノ等級金額等別紙書式ニ依リ各課ニ區分各部長ニ於テ前年度四月三十日迄ニ取纏メ伺出

第二條 諸經費ノ支出ヲ要スル時ハ別紙書式ノ請求書ヲ作り其領收證書(端書ノモノハ半紙



ニ貼付スヘシ)アルモノ若クハ証明書又ハ明細表ヲ要スルモノハ之ヲ添付シ第二部會計課  
 へ送付スヘシ

第三條 總テ領收証書ハ金員(一二十ノ數字ハ壹貳拾ノ文字ヲ用ヒ四拾五入ヲ以テ厘位ニ止  
 ム)係給ハ此限ニアラス」渾テ塗抹ヲ禁ス且出張先ニテ仕拂ヒタル証書ノ宛名ハ仕拂人ノ姓  
 名年月日ヲ明記セシムヘシ)及品目數量(歲出科目表甲乙ノ節ヲ合記セシムヘカラス)記載  
 記名証印ニシメ其他人足貨ハ兼テ定ムル處ノ用紙ニ金員里程受取人ノ姓名月日等記入証印  
 セシムルモノトス

第四條 旅費ハ出發前概算拂ノ請求ヲナスコトヲ得ルト雖モ管内出張ノ者ハ一ヶ月分ヲ超ユル  
 コトヲ得ス連月出張ノ者ハ翌月二日迄ニ派出先ヨリ別紙書式ノ精算書ニ明細表ヲ添へ送付ス  
 へシ最前概算拂ノ精算以前重テ概算拂ノ請求ヲナスコトヲ得ス  
 但管外出張ノモノ、精算方ハ第六條ノ例ニ依ル

第五條 旅費ハ勿論其他出張中ニ要セシ諸費ハ歸應後五日以内ニ精算若クハ請求スヘシ  
 但兩年度ニ跨ル時ハ三月三十一日迄ニ屬スル諸費ハ四月二日迄ニ精算若クハ請求スヘシ

第六條 郡長及各地在勤ノ警部警部補ノ旅費及附料ハ一ヶ月分取廻メ翌月二日迄ニ請求スヘ  
 シ

第七條 徵兵費乘兒養育窮民救助米代ハ現金前渡ノ請求ヲナスヘシ

第八條 賞勳年金及文官恩給ハ五月十一月武官恩給ハ六月九月十二月三月各盡日迄ニ所管郡  
 長ハ年金證若クハ恩給證書及生存證書ヲ檢閱濟ノ報告ヲナスヘシ

第九條 總テ各地へ送金ヲナス時ハ會計主務官ヨリ金庫宛名ノ領收證書用紙ヲ添通知スヘキ  
 ニ付金員到達スレハ該用紙ニ年月日ヲ填記々名調印ノ上之ヲ交換スヘシ

内國旅費明細書

(等級中ノ雇ハ車馬賃一里五錢)  
 (船賃一海里五錢日當三十錢)

用	務	等級人員	車馬賃		船賃		日當數		巡視日當數		合金員
			里	金員	海里	金員	日當數	金員	日當數	金員	
諸官廳へ事務上稟議トシテト		二	一	一	一	一	一	一	一	一	三三,000
京		二	一	一	一	一	一	一	一	一	三三,000
地方稅徵收方及營業稅町村位		六	四	一	一	一	一	一	一	一	五,000
等級取調トシ管内各所へ出張		六	一	一	一	一	一	一	一	一	一八,000
徵兵檢査所へ事務打合トシテ		五	一	一	一	一	一	一	一	一	一八,000
管内高田外一ヶ所へ全上		六	一	一	一	一	一	一	一	一	一八,000
行軍ニ付管内津川外四ヶ所へ		六	一	一	一	一	一	一	一	一	一八,000
全上		六	一	一	一	一	一	一	一	一	一八,000

町名番地 何 某 渡

何々請求書 (科目表ノ目以下皆同シ)

一金何程 ○ (課長若クハ首席者) (ノ證印以下同シ)

金何程 何々 (科目表ノ節以下皆同シ)

內		品	目	數	量	一個ノ價	代	價
何々	何々	何	何	何	何	何	何	何
金何程	何	程	程	程	程	錢	金	何
內	何	々	々	々	々	々	々	程

右御渡相成度(別紙本人請求若クハ証書何葉相添致請求)候也  
 第何部何課  
 (主任)官 姓 名 印  
 年月日 知事 宛

備人料請求書

一金何程 ○

內譯

名	稱	日	給	雇	日	數	金	金	員
小	使	何	錢	何	日	日	金	何	程
何	々	、	、	、	、	、	、	、	、

右ハ何々ノ爲何地出張中任用ノ分別紙本人証書何葉相添致請求候也

部 課 名

官 姓 名 印

年月日 知事 宛

內國旅費請求書

一金何程 ○

內

金何程

管外(巡視)日當何日分  
全車馬賃何里分

第十一類 出納

金何程 瀛車賃何哩分  
 金何程 瀛船賃何哩分  
 金何程 何等月手當何月分  
 但何々ニ付何地へ何地通(指定セラレタル地名)出張被命來ル何日出立ニ付概算請求  
 右御渡相成度候也

年月日 知事宛  
 官(等級) 部 課 名 姓 名 印

内國旅費追請求(過剩返納)書  
 何月何日概算受高  
 追請求高(過剩返納高)

金何程 ○  
 外  
 金何程 別紙明細表之通  
 右御渡相成度(致返納)候也

年月日 知事宛  
 官(等級) 部 課 名 姓 名 印

内國旅費請求書  
 別紙明細表之通

一金何程 ○  
 右御渡相成度候也

年月日 知事宛  
 官(等級) 部 課 名 姓 名 印

旅費明細書 明治 月 年 日 課長 ○ 課名 ○ ○

務用 為何々何那何村へ出張  
 官 姓 名 官 級 等 姓 名 印

一金何程 管内(外)日當何日分  
 金何程 同車馬賃何里分  
 内 金何程 瀛車賃何哩分  
 金何程 瀛船賃何哩分  
 金何程

名 稱 月 日 出發地名 經過地名 日 當 車 馬 瀛 船 瀛 程



事	由	發送月日	度數	切手ノ種類		金	員
				二錢	十錢		
何地出張先ヨリ		何月何日	何度			金	何程
本縣~		、、、	、			、	、
何地出張先ヨリ		、、、	、			、	、
何地某~		、、、	、			、	、

金何程  
電信切手代

事	由	發送月日	度數	切手ノ種類	受領證ノ別仕立	同差立局ノ名及	金	員
何地出張先ヨリ		何月何日	何度	十錢十五錢何	手數料	人足賃配達地名并里程	金	何程
ヨリ本縣~		、、、	、				金	何程
、、、		、、、	、				金	何程
、、、		、、、	、				金	何程

右ハ何々ノ爲メ何地外何ヶ所へ出張中仕拂候處相違無之此段致證明候也

年月日 知事宛  
部課名 官 姓名 名印

雜費請求書  
一金何程

但何月何日何々ノ爲午後八時過退廳ニ付賄料何度分一度金三錢五厘ツ、  
右御渡相成度候也

年月日 知事宛  
部課名 官 姓名 名印

府款	縣	歲出科目表	項目	節
		俸給及諸給	知事俸給 書記官俸給 技師俸給 島司俸給 警部長俸給 郡長俸給 判任以下俸給	技屬 手

						徵兵費
文具材料	筆紙墨文具	圖書及印刷費	備用品	參事人員手當	醫員俸給	
雜用品	游炭油類	硯小道具類	筆墨印肉類	用紙	印刷費	雜器機具
						手當

						非職俸給
死傷手當	惠與	死亡賜金	何官	何官	(備員)	見習
備外國人諸給	(官吏賞與)					看守副長
						看守長
						書記
						副典獄
						典獄
						警部
						警部
						體給

恩賞及救助費			
通信運搬費	雜費	內國旅費	褒賞費
郵便電信料 運搬費 保險料共	寫字料 家屋其他借料 賄費 船車馬類備費 雜品費	參事員及醫員旅費 海兵附添人旅費 檢丁旅費 入營旅費	木杯製造費 賞賜金

五百三十二

難破船費			
恩賜	救助費	諸給費	旅費
弔祭料 遺族扶助料 傷痍扶助料 療治料	究民救助 罹災救助 島民ニ係ル分 特別救助 島民ニ係ル分 復籍人諸費	浦役人醫師通辨人足等給料 浦役人護送人及被難人旅費	筆硯紙墨類 消耗品

第十一類 出納

五百三十三

警察費連帶支辨金		訴訟入費	旅費	雜給
警察費連帶支辨金		訴訟入費	內國旅費 呼出人旅費 外國人旅費	給與
郵便電信料及運搬費 被服費 賄及藥餌料 借家及小屋掛料 保安料 船車馬類備質 埋葬料		知事交際手當		

應費				
筆紙墨文具	圖書及印刷費	備品費	養育費	雇助料
印刷費	製本費 圖書購買費	標雜器 本械具	救難諸費	囑托手當 長壽者賜金 慰勞金



文具材料

- 用紙
- 諸帳簿
- 筆墨印肉類
- 視小道具類
- 薪炭油類
- 瓦斯及電氣燈
- 雜用品

●明治廿三年(十月)訓令乙第五十號

内務部、警察部、監獄署、郡役所、  
新潟縣常師範學校、新潟縣農  
學校、新潟測候所、檢校(縣)模院  
縣稅ニ關スル金錢出納規程來ル十一月一日ヨリ別冊ノ通改正ス

金錢出納規程

第一條 諸費ノ豫算ハ前年度ノ豫算額ニ比シ増減アルモノハ各科目毎ニ其事由ヲ詳記シ前年  
度六月三十日(新潟縣常師範學校經費ハ五月三十一日)迄ニ知事ニ呈出スヘシ  
但各支所ハ所管ノ部署ヘ差出シ其部署ニ於テ之ヲ編成シ知事ニ呈出スルモノトス

第二條 豫算令達後増額スルコトヲ得ス  
但避ク可カラサル事項ニヨリ臨時増額又ハ科目ノ流用ヲ要スル片ハ其事由ヲ具シ所管ノ  
部署ヲ經由シ指揮ヲ乞フモノトス

第三條 凡テ收入金ハ上納證書ヲ作り其内譯アルモノハ別ニ仕譯書ヲ添ヘ翌月五日迄ニ内務  
部第四課ヘ送付スヘシ

第四條 諸費ノ支出ヲ要スル片ハ請求書ヲ作り其證明書アルモノ又ハ明細表ヲ要スルモノハ  
之ヲ添付シ内務部第四課ヘ送付スヘシ  
但新潟縣常師範學校測候所(縣)模院ハ所管ノ部ヲ經由スヘシ

第五條 各郡役所警察署監獄支農農學校檢(縣)模院(新潟檢廳模院ハ除ク)ニケ年度豫算ヲ四  
分シ現金前渡ヲ請求スヘシ

第六條 領收證書ハ全員(渾テ塗抹ヲ禁ス且出張先ニテ仕拂ヒタル證書ノ宛名ハ仕拂人ノ姓  
名年月日ヲ明記セシムヘシ)及品目數目又人足賃ハ里程若シハ日數ヲ記載記名証印セシ  
ムルモノトス

第七條 分署豫備金ハ適宜取締方法ヲ設ケ金拾圓以內分署長ニ交付スルコトヲ得

第八條 旅費ハ概算拂ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ一ヶ月分ヲ超ユルコトヲ得ス連月出張  
ノ者ハ翌月二日迄ニ派出先ヨリ精算書ニ明細表ヲ添ヘ送付スヘシ最前概算拂ノ精算未済ノ  
モノハ重テ概算拂ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス  
但管外出張ハ此限ニアラス

第九條 旅費ハ勿論其他出張中ニ要セシ諸費ハ歸廳後五日以内ニ精算若クハ請求スヘシ  
 但兩年度ニ跨ル時ハ三月三十一日迄ニ屬スル諸費ハ四月二日迄ニ精算若クハ請求スヘシ  
 第十條 計算簿ハ従前ノ程式ニ據リ適宜之ヲ備置キ各科目ヲ分類シ豫算額ヲ基礎トシ其出納  
 ノ計算ヲ明晰ナラシムヘシ  
 第十一條 諸費現金前渡ニ對スル仕拂高ハ一ヶ月分ツ、別紙書式ノ報告書ヲ調製シ翌月五日  
 迄支所ハ其所管ノ部署ヲ經テ知事ニ呈出スヘシ  
 第十二條 諸費一ケ年度ノ仕拂高ハ計算簿ノ結果ニ據リ別紙書式ノ報告書ヲ調製シ翌年度四  
 月三十日迄ニ知事ニ呈出スヘシ  
 第十三條 現金前渡ニ對スル仕拂領收証書ハ小科目ニ分類シ一ヶ月毎報告書ニ添屬スヘシ  
 第十四條 國庫ニ屬スル收支ノ順序ハ別ニ定ムル規則ニ據ルモノトス  
 第十一條書式 (一)内ハ未嘗  
 何年度何年何月中何々(大科目)費仕拂報告書  
 金何程 (二)ヶ月目例外書ノ分)前月ヨリ繰越高  
 金何程 何月何日受收高  
 金何程 (仕拂高ヨリ戻入ノ比例)何月何日戻入高  
 計金何程  
 一金何程 仕 拂 高  
 此譯

金何程 何々(中科目)  
 内 金何程 何々(小科目)  
 金何程 何々(小科目)  
 金何程 何々(中科目)  
 内 金何程 何々(小科目)  
 金何程 何々(小科目)  
 (以下ニ準ス)  
 外 金何程 概 算 渡  
 金何程 現 金  
 (概算拂精算ノ仕拂高ニ組込ムヘシ)  
 右仕拂高書面ノ通相違無之候也  
 年 月 日 何々長官氏名印  
 縣知事宛

第十二條書式

(一)内ハ米書

何年度何々(大科目)仕拂高報告書

(高)金何程

(豫算合達高(増減セシ高))  
仕 拂 高

此譯

(高)金何程

(豫算合達高(増減セシ高))  
何々(中科目)

金何程

(備考) (當初豫算高ニ對シ何々ノ爲支拂上有余又ハ不足ヲ生セシニ付何月何日  
増減額又ハ何々ヨリ流用増減許可)

内

金何程

何々(小科目)

金何程

何々(小科目)

(高)金何程

(豫算合達高(増減セシ高))  
何々(中科目)

金何程

(備考)(全上)

内

金何程

何々(小科目)  
何々(小科目)

金何程

(以上之ニ準ス)

一金何程

残

高

(備考) (豫算高ニ對シ本行ノ殘余アルハ何々事故ニ由ル何月何日返納濟)  
右ハ何年度何々(大科目)費仕拂高書面之通相違無之候也

年 月 日

縣知事宛

何々長官氏名 印

○會計檢査

●明治廿三年(七月)訓令乙第三十六號

本廳、警察署、監獄、郡役所、新潟尋常師範學校、新潟縣農學校、新潟測候所、(檢驅)棧院

會計檢査規則左ノ通相定ム

會計檢査規則

第一條 地方税金備荒儲蓄金管内共有金雜部金ノ收支並右ニ屬スル財產物品ノ檢査ハ總テ本  
則ニ依ル

第二條 檢査ヲ爲ス可キ者左ノ如シ

一 歳入歳出ノ決算

二 雜部金ノ計算

三 財產物品ノ消長

第十一類 會計檢査

四 出納吏ノ計算  
 五 爲換方ノ簿書及現金  
 第三條 縣會ノ議決ニ依リ縣下郡市町村ノ土木工事又ハ教育衛生勸業慈善ノ事業若クハ營造物ニ補助金ヲ與フル場合ニ於テハ臨時其事業ニ關スル會計又ハ營造物ノ會計ヲ檢査セシムルコト有ルヘシ  
 第四條 檢査員ハ前條歳入歳出ノ決算其他ノ檢査ヲ遂ケ左ノ諸項ニ付檢査書ヲ作り意見ヲ具申スヘシ  
 一 決算書ノ金額ト收支現計書若クハ内譯簿ノ金額ト符合スルヤ否ヤ  
 二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用財產物品ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其豫算ノ規程法令又ハ議決々定ニ違フコトナキヤ否ヤ  
 三 雜部金ノ收支  
 四 爲替方簿書ノ計算及現金  
 第五條 檢査員ハ檢査上必要ト見認ル簿書其他書類ノ檢閱又ハ主任者ノ辨明書ヲ要求スルコトヲ得  
 檢査上必要ト見認ムルトハ實地檢査ヲナサシムルコトアルヘシ  
 第六條 第四條ノ檢査書ニ依リ其成績正當ナリト判決シタル片ハ當該部所長ニ對シ認可狀ヲ交付シテ其責任ヲ解除ス  
 第七條 第六條ノ認可狀ヲ下附セシ後ト雖モ其下附セシ日ヨリ五ケ年以内ニ於テハ出納吏ヨ

リ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタル片ハ再審ヲナスヘシ但詐偽ノ証憑ヲ發見シタル片ハ五ケ年後ト雖モ再審ヲナサシム

第十二類

墳墓 付埋火葬

明治廿三年(五月)訓令甲第三十六號 郡役所 市役所 町村役場  
 明治十九年(十月)訓令乙第六十八號 殉難墳墓担当者心得相廢止ス  
 但掃除担当者ハ其郡役所ヨリ傳達ス可シ  
 ●明治廿三年(六月)縣令甲第四十六號  
 明治十八年(四月)甲第七十一號 墓地及埋葬取締細則中左之通改正追加ス  
 第二條 墓地ヲ新設スルニハ左ノ制限ニ依リ高燥ノ地ヲ撰ムヘシ  
 一 人家ヲ距ル直徑六十間以上但町村ニシテ人家點在シアルモノハ其人家トノ距離三十間マテ減縮スルコトヲ得  
 一 飲用水道及飲用川泉ヲ距ル直徑六十間以上但町村ニシテ人家點在シアルモノハ其飲用水トノ距離前項ニ準シ減縮スルコトヲ得 鉄管其他不浸透質ノ材料ヲ以テ構造シタル水道ハ此限ニアラス  
 一 國道縣道鐵道ヲ距ル直徑三十間以上但樹竹叢蔽スルモノハ此限ニアラス  
 一 大川(舊ニ等川マテ云フ)ヲ距ル六十間以上

第十二類 墳墓 付埋火葬

第六條 火葬場ヲ新設スルニハ左ノ制限ニ依リ風上ニ位セス飲用水ニ障害ナキ地ヲ撰ミ火爐  
烟筒ノ裝置ヲ爲シ且周圍ニ塼牆ヲ設クヘシ但山林原野等ニシテ樹木叢蔽ノ場所ナルハ格  
別ナリトス

一、人家及人民輻湊ノ地ヲ距ル直徑百二十間以上但町村ニシテ適當ノ地ナキ等不得已事情  
アルモノハ其距離九十間マテ減縮スルコトヲ得

一、國道縣道鐵道ヲ距ル直徑六十間以上  
第七條 從前許可シタル墓地火葬場ニシテ障害アリト見認ムルモノハ改良セシムルコトアル  
ヘシ

墓地火葬場制限内ニ於テ新クニ家屋ヲ建設シ又ハ飲料ノ井水ヲ穿ツヲ得ス  
但死屍ノ埋葬ヲ禁シタル墓地ハ此限ニアラス

墓地及火葬場ハ其町村ニ適當ノ地ナキトキハ最寄町村聯合設置セシムルコトアルヘシ  
第十九條中第七條第一項トアルヲ第七條第二項本文ト改ム

第十三類  
○警察區畫

●明治廿二年(四月)縣令甲第三十九號  
新發田警察署所屬稻荷岡分署ヲ紫雲寺分署高田警察署所屬川浦分署ヲ里五十公野分署全新井  
分署ヲ大崎分署村上警察署所屬勝木分署ヲ八幡分署ト改稱シ及從前ノ警察區畫中別紙ノ通改

正ス  
但警察署所在地ニ設ケアルモノヲ除キ其他ノ巡査派出所ハ總テ之ヲ廢止ス

新潟警察署

位置 新潟市大字西堀通六番町  
所轄 新潟市一圓

上大川前通 自壹番町 至七番町	本町通 自壹番町 至七番町	東堀前通 自壹番町 至七番町
東堀通 自壹番町 至七番町	古町通 自壹番町 至七番町	西堀前通 自壹番町 至七番町
西堀通 自壹番町 至七番町	學校町通 自壹番町 至七番町	學校裏町
醫學町通 自壹番町 至七番町	寺裏通 自壹番町 至七番町	南横堀町
東中通 自壹番町 至七番町	旭町通 自壹番町 至七番町	下旭町
西中通 自壹番町 至七番町	營所通 自壹番町 至七番町	南大畑町
北大畑通	西大畑	東大畑通 自壹番町 至七番町
中大畑町	南濱通 自壹番町 至七番町	北濱通 自壹番町 至七番町

東湊町 通自壹ノ町 至四ノ町	魁	南昆沙門町	並木門町	南多門町	秣川岸通二町目	月	礎町通上壹ノ町	祝	榮町自壹町目 至三町目	西受地町	夕榮町	烏帽子町	田中町
湊町 通自壹ノ町 至四ノ町	綠	北昆沙門町	相生門町	北多門町	東麻島町	雪	礎町通自壹ノ町 至六ノ町	寺山町	壽町二町目	寄合町	横七番町通自壹町目 至七町目	寄附町	曙
赤阪町 自壹ノ町 至三ノ町	豐照町	船塙町二町目	芳吉町	住吉町	西麻島町	新島町通自壹ノ町 至五ノ町	花	下大川前通自壹ノ町 至七ノ町	元祝町	菅根町	東受地町	翁町二町目	四ッ屋町自壹町目 至三町目

關屋村古新田	横壹番町	元下島町	附船町自壹町目 至三町目	西船見町	窪田町	西湊町通自壹ノ町 至四ノ町	田町自壹町目 至三町目	見方町
登番堀通町	山田町二町目	寄居町	室町二町目	忠藏町	入船町通自壹町目 至六町目	本間町自壹町目 至三町目	浮洲町	
横六番町	東入船町	解川岸町	海邊町二番町	船見町二町目	松岡町	早川町自壹町目 至三町目	稻荷町	

新發田警察署  
位置 北蒲原郡新發田本村  
直轄 北蒲原郡一圓

新發田本村	新發田町	中井村	猿橋村	荒橋村	赤谷村
米倉村	内竹村	松浦村	石田村	板津村	大宮村

楠川村	五十公野村	島塚村	中浦村	本田村	荒川村
天王村	佐々木村	蓮野村	裝島村	菅谷村	藏光村
新發田 警察署	水原分署	加治村	上館村		
位置	北浦原郡水原町				
所轄	北浦原郡ノ内				
水原町	安野村	駒林村	長塲村	京ノ瀬村	安田村
赤坂村	社田村	小浮村	出湯村	笹岡村	山倉村
天神塚村	大室村	堀越村	小島村		
新發田 警察署	葛塚分署				
位置	北浦原郡葛塚村				
所轄	北浦原郡ノ内				
葛塚村	嘉山村	島興野村	太田古屋村	藤井村	島崎村
笹山村	南濱村	龜浦村	越岡村	大久保村	三森村
新發田 警察署	中條分署	鳥屋村			
位置	北浦原郡中條町				

中條町	柴橋村	本條村	黒川村	横田村	坪江村
新發田 警察署	紫雲寺分署				
位置	北浦原郡紫雲寺村				
所轄	北浦原郡ノ内				
紫雲寺村	堀切村	松塚村	築地村	乙村	龜代村
中川村	泉村	大島村			
新津警察署					
位置	中浦原郡新津町				
所轄	中浦原郡一圓				
直轄					
新津町	小鹿村	津嶋村	新關村	阿賀浦村	澤海村
滿日村	木津村	荻野村	川結村	三興野村	
新津 警察署	龜田分署				
位置	中浦原郡龜田町				
所轄	中浦原郡ノ内				





稻島村	仁々村	漆山村	和納村	鴻巢村	湯前村
打越村	共和村	中合村	曲通村	秋津村	三針村
道上村					
卷 警察署 地藏堂分署					
所轄 西浦原郡内					
地藏堂町	國上村	箕砂村	中島村	四箇村	粟生津村
横田村	熊森村				
卷 警察署 燕分署					
所轄 西浦原郡内					
燕町	大關村	小中川郷村	小高村	加奈居村	川前村
三方崎村	小吉村	小池村	松長村	東太田村	柚木村
卷 警察署 會根分署					
所轄 西浦原郡内					
會根村	赤塚村	西川村	中野小屋村	島方村	横戸村

五之上村	榊瀨村	七穂村	松野尾村	越前濱村	角田濱村
白根村	味方村	井隨村			
卷 警察署 内野分署					
所轄 西浦原郡内					
内野村	五十嵐濱村	木山村	河西村	新貝村	黒鳥村
木場村	鳥原村	上坂井輪村	下坂井輪村	新通村	金巻村
板井村					
三條警察署					
位置 南浦原郡三條町					
直轄 南浦原郡内					
三條町	裏館村	一ノ木戸村	上林村	旭村	西大崎村
東大崎村	須頃村	大島村	長堀村	笹岡村	四ッ澤村
本下田村	前谷村	外谷村	本城村	槻田村	金子村
福多村	小古瀬村	鬼木村	五加村	尾崎村	大浦村
三條警察署 加茂分署					



寺泊町	西山村	北西越村	瀧村	野積村	間瀬村
長岡警察署	古志郡一圓	古志郡長岡本町	直轄	古志郡一圓	
長岡本町	長岡町	千手町	草生津町	宮内村	中通村
前川村	高島村	十日町村	山谷澤村	六日市村	石津村
川西村	福戸村	四箇村	芹川村	川李村	王内村
新町	黒條村	四郎丸村	山通村	石阪村	中貫村
山本村	富會龜村	新組村	蓬澤村	東山村	栖吉村
川崎村	種芋原村	竹澤村	東竹澤村	虫龜村	
長岡警察署	古志郡橡尾町				
橡尾町	古志郡ノ内	上北谷村	川谷村	吉橙村	五日町村

上鹽谷村	上鹽村	前東谷村	入東谷村	西谷村	中野俣村
一之貝村	荷頃村	橡堀村	半藏金村		
小千谷警察署	北魚沼郡小千谷町				
直轄	北魚沼郡一圓				
小千谷町	城川村	千田村	鴻野谷村	吉谷村	山邊村
上川村	川口村	津山村	川井村	三佛生村	櫻町村
種生村	田麥山村				
小千谷警察署	北魚沼郡堀ノ内村				
所轄	北魚沼郡ノ内				
堀ノ内村	宇賀地村	田川入村	八箇村	湯ノ谷村	羽川村
敷神村	島町村	城下村	下條村	小平尾村	中條村
廣瀬村	須原村	上條村	高根村	入廣瀬村	小出町村
六日町警察署	南魚沼郡六日町村				佐梨村
					青島村組合

廿三年三月廿一日  
 號三十一  
 柏崎警察署  
 署所ヲ以テ  
 割キテ更  
 ニ宮川分  
 署ヲ設ク

第十三類 警察區畫

武石村	加納村	山室村	折居村	宮川町	中川村	刈羽村	田尻村	千谷澤村	野田村	柏崎町	河内村	倉俣村	中條村	貝野村	柏崎警察署
南條村	安田村	大澤村	高尾村	豊田村	別山村	東城村	藤井村	北條村	田澤村	大洲村	川治村	中深見村	東下組村	田澤村	所轄 位置 劉羽郡柏崎町
妙法寺村	平井村	七日町村	椽ヶ原村	日高村	長谷村	曾地村	旭津村	秋津村	増田村	枇杷島村	今泉村	谷内村	眞人村	宮野原村	所轄 位置 中魚沼郡十日町村
荒濱村	椎谷町	横澤村	山中村	石黒村	勝山村	油田村	吉井村	小淵村	女谷村	鏡里村	秋成村	上郷村	仙田村	外丸村	所轄 位置 中魚沼郡一圓
石森組合	比角村	山横澤村	岡野町村	下宿村	石地町村	長原村	榎原村	廣田村	中里村	上條村	赤崎村	下船渡村	六箇村	三箇村	所轄 位置 南魚沼郡湯澤村
萩漆組合	法末村	善根村	岡田村	鯨波村	大田村	二田村	日吉村	長島村	結城野村	別俣村	寺田村	新坐村	馬場村		所轄 位置 南魚沼郡湯澤村

五百五十九

十日町村	上野村	十日町警察署	湯澤村	三俣村	十日町警察署	湯澤分署	六日町	大富組合	伊米ヶ崎村	南敷神村	西五十澤村	六日町村	直轄	所轄	南魚沼郡一圓
中野村	中野村	中野村	神立村	土樽村	神立村	土樽村	大崎組合	榎窪新田	北敷神村	南五十澤村	中目來田村	富實村	南魚沼郡湯澤村	南魚沼郡湯澤村	南魚沼郡湯澤村
千手町村	千手町村	千手町村	土樽村	三國組合	土樽村	三國組合	大崎組合	鹽澤村	浦佐村	東五十澤村	東五十澤村	南旭村	南魚沼郡湯澤村	南魚沼郡湯澤村	南魚沼郡湯澤村
吉田村	吉田村	吉田村	三國組合	西中島村	三國組合	三國組合	上田組合	吉里村	坂本村	南城內村	南城內村	大木六村	南魚沼郡湯澤村	南魚沼郡湯澤村	南魚沼郡湯澤村
岩澤村	岩澤村	岩澤村	西中島村	東中島村	西中島村	西中島村	長崎村	水無村	北城內村	北城內村	北城內村	大和村	南魚沼郡湯澤村	南魚沼郡湯澤村	南魚沼郡湯澤村
眞田村	眞田村	眞田村	東中島村		東中島村	東中島村	小栗山村	三用村	大卷村	大卷村	大卷村		南魚沼郡湯澤村	南魚沼郡湯澤村	南魚沼郡湯澤村

五百五十八

森山組合

安塚警察署

位置 東頸城郡安塚村

所轄 東頸城郡一圓

安塚村 月影村 中川村 下保倉村 末廣村 中保倉村

保倉村 旭村 峰方村 北平村 北山村 松平村

布川村 松之山村 伊澤村 松里村 浦田村 奴奈川村

大島村 元保倉村 船倉村 豐坂村 眞萩平村 小切戸村

川上村 沼木村 川邊村 里見村 沖見村 仁上村

高田警察署 須川村 行野村

位置 中頸城郡高城村

所轄 中頸城郡一圓

高城村 高田町 下ノ鄉村 北大崎村 三鄉村 下板倉村

大和村 斐太村 新道村 諏訪村 津有村ノ内 大字四ノ所全戸

新田今門田新田全市野江全桐原今本道今下野田今長面今上野田(字野田坪ヲ除ク)今藤塚全

下新町今池全上常川今熊塚今熊留新田今下富川今上新町今新保古新田今本新保今野尻今稻

全上雲寺今中野新田今茨澤今荒屋今虫川今角川

高田直江津分署

位置 中頸城郡直江津町

所轄 中頸城郡ノ内

直江津町 高志村 南川村 有田村 瀧町村 犀瀧村

北大濃村 八千瀨村 頸城村 春日村 國府村 谷濱村

和泉村 桑取村

高田柿崎分署

位置 中頸城郡柿崎村

所轄 中頸城郡ノ内

柿崎村 犀濱村 七ヶ村 明治村 旭村 上吉川村

水源村 黒川村 米山村 上米山村 中吉川村 大出口村

川谷村 鉢崎村 下黒川村 黒岩村

高田大崎分署

位置 中頸城郡大崎村

所轄 中頸城郡ノ内

大崎村 水上村 參賀村 大倉村 國明村 西郷村

矢代村 鳥阪村 瑞穂村 長澤村 平丸村 水原村

廿三年九月十一日  
令甲一十一號  
第七分署  
大崎分署  
新井分署  
改稱

第十三類 警察區畫

五百六十一

高田	泉村	箕冠村	寺野村	根越村	豊原村	板倉村
高田	高田	關山分署	位置	中頸城郡關山村		
關山	所轄	中頸城郡内				
關山	杉ノ澤村	關川村	妙高村	中鄉村	境	村
原通	豐葦村	大鹿村				
高田	里五十公野分署					
警察署	位置	中頸城郡里五十公野村				
里幸公野	所轄	中頸城郡内				
高士	保倉村	美守村	菅原村	柿池村	飯田村	
高士	上杉村	津有村	大字新屋敷全四ヶ辻全角川古新田全重川新田全三			
系魚川	警察署	位置	西頸城郡系魚川町			
系魚川	直轄	西頸城郡一圓				
系魚川	浦本村	北早川村	西早川村	南早川村	東早川村	
西山	東山村	大和川村	北西海村	南西海村	柳形村	

廿二年七月廿九日  
甲令第十號  
以テ所  
ヲ以テ  
變更ス

第十三類 警察區畫

奴奈川	上根知村	中根知村	下根知村	小瀧村	今井村
須澤	田海村	青海村	歌外波村	大野村	梶屋敷村
市振組合					
系魚川	能生分署	位置	西頸城郡能生町		
警察署	所轄	西頸城郡内			
能生	町	名立町	下名立村	上名立村	四ヶ所村
東能生	村	南能生村	西能生村	中能生村	木浦村
村上	警察署	位置	岩船郡村上町		
村上	直轄	岩船郡一圓			
村上	村上本町	東神納村	岩船町	西神納村	鹽屋村
平林	大津村	中保内村	金屋村	海老江村	南保内村
上保内	關村	七箇谷村	九箇谷村	川北村	女川村
神納	門前谷村	山邊里村	館腰村	長津村	新屋村
布部	岩澤村	高根村	鹽野町村	大須戸村	猿澤村

村 上八幡分署  
 警察署 位置 岩船郡八幡村  
 所轄 岩船郡ノ内  
 八幡村 大川谷村 中俣村 黒川俣村  
 相川警察署  
 位置 佐渡國雜太郡相川町  
 所轄 佐渡國一圓  
 直轄 雜太郡ノ内  
 相川町 二見村 澤根町村 金泉村 北海村  
 加茂郡ノ内  
 外海府村 高千村  
 相川 川原田分署  
 警察署 位置 佐渡國雜太郡川原田町  
 所轄 雜太郡ノ内 羽茂郡ノ内  
 雜太郡ノ内

川原田町 野田村 二宮村 金澤村 平泉村 八幡村  
 五十里町 金丸村 新町 眞野村  
 羽茂郡ノ内  
 小布勢村 戀ヶ浦村  
 相川 小木分署  
 警察署 位置 佐渡國羽茂郡小木町  
 所轄 羽茂郡ノ内  
 小木町 兼ノ谷村 岬村 大橋村 眞浦村 千手村  
 川茂村 松ヶ崎村 三川村 赤泊村 徳和村 羽茂本郷村  
 相川 湊分署  
 警察署 位置 佐渡國加茂郡湊町  
 所轄 加茂郡ノ内  
 湊町 夷吉町 岩首村 水津村 富岡村 明治村  
 海津村 羽吉村 内浦村 内海府村 秋津村 長江村  
 加茂歌代村 吉井村 河崎村 潟上組合  
 相川 新穂分署  
 警察署 位置 佐渡國加茂郡新穂村

廿三年三月  
 縣令甲  
 第三十一  
 號ヲ以テ  
 新穂分署  
 ヲ廢シテ  
 茂郡ヲ加  
 分署ヲ添  
 太郡ヲ雜  
 原田分署  
 所轄トス

所轄 加茂郡ノ内  
 加茂郡ノ内  
 新穂村 大野村 長畝村  
 雜太郡ノ内  
 三宮村 國中村 畑野村 小倉村 栗野江村

●明治廿二年(七月)縣令甲第九十號  
 本年(四月)縣令甲第三十九號警察區畫中左ノ通改正ス

卷警察署直轄  
 西蒲原郡ノ内  
 櫻井郷村  
 右卷警署地蔵堂分署所轄トス  
 卷警察署直轄  
 西蒲原郡ノ内  
 太花野村  
 右卷警署分署所轄トス  
 村上警察署直轄  
 岩船郡ノ内

●明治廿三年(三月)縣令甲第三十一號  
 相川警察署所屬新穂分署ヲ本月限リ廢シ刈羽郡宮川町ニ柏崎警察署所屬宮川分署ヲ設ケ明治  
 廿二年(四月)縣令甲第三十九號警察區畫中左ノ通改定來ル四月一日ヨリ實施ス  
 柏崎警察署所轄  
 刈羽郡ノ内  
 宮川町、刈羽村、東城村、中川村、油田村、長原村、二田村、別山村、長谷村、勝山村、石地町村、  
 大田村、椎谷町、妙法寺村  
 右柏崎警察署宮川分署所轄トス  
 相川警察署新穂分署所轄  
 加茂郡ノ内  
 新穂村、大野村、長畝村  
 右相川警察署分署所轄トス

下海府村  
 右村上八幡分署所轄トス  
 高田警察署直轄  
 中頸城郡ノ内  
 津有村 大字角川  
 右高田里五十公野分署所轄トス



相川警察署新穂分署所轄

雜太郡ノ内

三宮村、國中村、畑野村、小倉村、栗野江村  
右相川警察署川原田分署所轄トス

●明治廿三年(九月)縣令甲第七十一號

高田警察署所屬大崎分署ヲ新井分署ト改稱ス

●明治二十二年(四月)告示第五十四號

各巡查派出所及巡查派遣所更ニ左記ノ通相定ム

新潟警察署

魁町水上 巡查派出所

營所通

巡查派出所

學校町

巡查派出所

古町通 巡查派出所

本町通

巡查派出所

下大川前

巡查派出所

西湊町 巡查派出所

東堀通

巡查派出所

西堀通

巡查派出所

新發田警察署

新發田町 巡查派出所

赤谷村

巡查派出所

米倉村

巡查派出所

石田村 巡查派出所

五十公野村

巡查派出所

中浦村

巡查派出所

本田村 巡查派出所

佐々木村

巡查派出所

菅谷村

巡查派出所

聖籠村 巡查派出所

加治村

巡查派出所

新發田警察署

水原分署

廿三年十一月十日告示第八十八號ヲ以テ巡查派出所ヲ改稱ス

安田村 巡查派出所  
山倉村 巡查派出所

社田村 巡查派出所  
大室村 巡查派出所

笹岡村 巡查派出所  
堀越村 巡查派出所

新發田警察署  
葛塚分署

島崎村 巡查派出所  
濁川村 巡查派出所

太田古屋村 巡查派出所  
三森村 巡查派出所

新發田警察署  
中條分署

松ヶ崎濱村 巡查派出所  
龜浦村 巡查派出所

新發田警察署  
黒川村 巡查派出所

坪江村 巡查派出所

金塚村 巡查派出所

新發田警察署  
紫雲寺分署

坪江村 巡查派出所

金塚村 巡查派出所

新發田警察署  
築地村 巡查派出所

乙村 巡查派出所

紫雲寺村 巡查派出所  
字眞野原

新發田警察署  
中川村 巡查派出所

乙村 巡查派出所

紫雲寺村 巡查派出所  
字眞野原

新發田警察署  
津島村 巡查派出所

新關村 巡查派出所

滿日村 巡查派出所

新發田警察署  
荻野村 巡查派出所

新關村 巡查派出所

滿日村 巡查派出所

新發田警察署  
酒屋村 巡查派出所

早通村 巡查派出所

横越村 巡查派出所

新津	大淵村 巡查派遣所		
新津	警察署 沼垂分署		
新津	松島村 巡查派遣所	石山村 巡查派遣所	鳥屋王村 巡查派遣所
新津	曾野木村 巡查派遣所		
新津	警察署 白根分署		
新津	須田村 巡查派遣所	新飯田村 巡查派遣所	根岸村 巡查派遣所
新津	警察署 小須戸分署		
新津	小梅村 巡查派遣所	大郷村 巡查派遣所	白井村 巡查派遣所
新津	庄瀬村 巡查派遣所		
新津	警察署 五泉分署		
新津	川東村 巡查派遣所	橋田村 巡查派遣所	巢本村 巡查派遣所
新津	警察署 村松分署		
新津	大浦原村 巡查派遣所	川内村 巡查派遣所	七谷村 巡查派遣所
新津	菅名村 巡查派遣所		
卷	警察署		

卷	佐渡山村 巡查派遣所	吉田村 巡查派遣所	矢作村 巡查派遣所
卷	彌彦村 巡查派遣所	岩室村 巡查派遣所	福木岡村 巡查派遣所
卷	和納村 巡查派遣所	漆山村 巡查派遣所	秋津村 巡查派遣所
卷	中合村 巡查派遣所		
卷	警察署 地藏堂分署		
卷	國上村 巡查派遣所	粟生津村 巡查派遣所	
卷	警察署 燕分署		
卷	小池村 巡查派遣所	松長村 巡查派遣所	小吉村 巡查派遣所
卷	警察署 曾根分署		
卷	赤塚村 巡查派遣所	松野尾村 巡查派遣所	升瀧村 巡查派遣所
卷	島方村 巡查派遣所	味方村 巡查派遣所	
卷	警察署 内野分署		
卷	金卷村上組 巡查派遣所	金卷村下組 巡查派遣所	黒鳥村 巡查派遣所
卷	下坂井輪村 巡查派遣所	木山村 巡查派遣所	
卷	三條警察署		

上林村 巡查派遣所	西大崎村 巡查派遣所	金子村 巡查派遣所
小古瀬村 巡查派遣所	長堀村 巡查派遣所	前谷村 巡查派遣所
本下田村 巡查派遣所	本下田村 巡查派遣所	
字北五百川 巡查派遣所	字牛野尾 巡查派遣所	
三條 加茂分署		
警察署		
田上村 巡查派遣所	大槻村 巡查派遣所	
三條 見附分署		
警察署		
大瀧村 巡查派遣所	葛巻組村 巡查派遣所	
三條 中ノ島分署		
警察署		
中野村 巡查派遣所	中條村 巡查派遣所	帶織村 巡查派遣所
津川警察署		
下條村 巡查派遣所	小川村 巡查派遣所	西川村 巡查派遣所
日出谷村 巡查派遣所		
奥板警察署		
脇野町村 巡查派遣所	宮本村 巡查派遣所	大積村 巡查派遣所
關原村 巡查派遣所	大島村 巡查派遣所	深澤村 巡查派遣所

塚山村 巡查派遣所	片貝村 巡查派遣所	浦村 巡查派遣所
善高村 巡查派遣所	島崎村 巡查派遣所	
奥板出雲崎分署		
警察署		
中越村 巡查派遣所	村田村 巡查派遣所	
奥板寺泊分署		
警察署		
北西越村 巡查派遣所	間瀬村 巡查派遣所	
長岡警察署		
千手町 巡查派遣所	山本村 巡查派遣所	新組村 巡查派遣所
黒條村 巡查派遣所	芹川村 巡查派遣所	川西村 巡查派遣所
中通村 巡查派遣所	十日町村 巡查派遣所	六日市村 巡查派遣所
竹澤村 巡查派遣所	逢澤村 巡查派遣所	
長岡 枋尾分署		
警察署		
西谷村 巡查派遣所	入東谷村 巡查派遣所	上鹽谷村 巡查派遣所
五日町村 巡查派遣所	北谷村 巡查派遣所	
小千谷警察署		
警察署		
鴻野谷村 巡查派遣所	吉谷村 巡查派遣所	山邊村 巡查派遣所

小千谷警察署 堀ノ内分署	蘇生村 巡查派遣所	川口村 巡查派遣所	湯ノ谷村 巡查派遣所
小田町村 巡查派遣所	敷神村 巡查派遣所	入廣瀬村 巡查派遣所	
下條村 巡查派遣所	須原村 巡查派遣所		
六日町警察署			
長崎村 巡查派遣所	鹽澤村 巡查派遣所	南敷神村 巡查派遣所	
浦佐村 巡查派遣所	伊米ヶ崎村 巡查派遣所	大崎村 巡查派遣所	
南城內村 巡查派遣所	南五十澤村 巡查派遣所		
六日町湯澤分署			
三國組合 巡查派遣所	大沼村 巡查派遣所	東中島村 巡查派遣所	
十日町警察署			
下船渡村 巡查派遣所	下組村 巡查派遣所	中條村 巡查派遣所	
今泉村 巡查派遣所	馬場村 巡查派遣所	眞人村 巡查派遣所	
千手町村 巡查派遣所	仙田村 巡查派遣所	倉俣村 巡查派遣所	
秋成村 巡查派遣所	上郷村 巡查派遣所		
柏崎警察署			

安田村 巡查派遣所	旭村 巡查派遣所	曾地村 巡查派遣所
北條村 巡查派遣所	長鳥村 巡查派遣所	上條村 巡查派遣所
野田村 巡查派遣所	石曾根村 巡查派遣所	岡野町村 巡查派遣所
門出村 巡查派遣所	増田村 巡查派遣所	中里村 巡查派遣所
千谷澤村 巡查派遣所	宮川町 巡查派遣所	椎谷町 巡查派遣所
石地町村 巡查派遣所	妙法寺村 巡查派遣所	荒濱村 巡查派遣所
安塚警察署		
里見村 巡查派遣所	下保倉村 巡查派遣所	保倉村 巡查派遣所
奴奈川村 巡查派遣所	松里村 巡查派遣所	布川村 巡查派遣所
松平村 巡查派遣所	船倉村 巡查派遣所	
高田警察署		
吳服町 巡查派出所	津有新村 巡查派遣所	下板倉村 巡查派遣所
斐太村 巡查派出所	津有野目 巡查派遣所	諏訪村 巡查派遣所
高田直江津分署		
高田警察署		
渦町村 巡查派出所	頸城村 巡查派出所	春日村 巡查派出所
谷濱村 巡查派出所		

高田 柿崎分署	旭村 巡查派遣所	中吉川村 巡查派遣所
明治村 巡查派遣所	下黒川村 巡查派遣所	鉢崎村 巡查派遣所
水源村 巡查派遣所		
高田 大崎分署	根越村 巡查派遣所	寺野村 巡查派遣所
板倉村 巡查派遣所	鳥坂村 巡查派遣所	西郷村 巡查派遣所
瑞穂村 巡查派遣所		
矢代村 巡查派遣所		
高田 關山分署	關川村 巡查派遣所	大鹿村 巡查派遣所
中郷村 巡查派遣所		
高田 里五十公野分署	美守村 巡查派遣所	上杉村 巡查派遣所
保倉村 巡查派遣所	飯田村 巡查派遣所	
菅原村 巡查派遣所		
糸魚川警察署	市振村 巡查派遣所	小瀧村 巡查派遣所
青海村 巡查派遣所	北西海村 巡查派遣所	梶屋敷村 巡查派遣所
下根知村 巡查派遣所		

東早川村 巡查派遣所	上名立村 巡查派遣所	南能生村 巡查派遣所
糸魚川 能生分署		
名立町 巡查派遣所		
四ヶ所村 巡查派遣所		
村上警察署	女川村 巡查派遣所	關村 巡查派遣所
神納村 巡查派遣所	金屋村 巡查派遣所	岩船町 巡查派遣所
平林村 巡查派遣所	猿澤村 巡查派遣所	鹽野町村 巡查派遣所
新屋村 巡查派遣所		
下海府村 巡查派遣所		
村上 八幡分署		
警察署	大川谷村 巡查派遣所	中俣村 巡查派遣所
黒川俣村 巡查派遣所		
相川警察署	外海府村 巡查派遣所	二見村 巡查派遣所
北海村 巡查派遣所		
相川 川原田分署		
警察署	小布勢村 巡查派遣所	金澤村 巡查派遣所
新町 巡查派遣所		
五十里村 巡查派遣所		

相川 小木分署  
 警察署  
 赤 泊 巡查派遣所 松ヶ崎村 巡查派遣所 龜ノ脊村 巡查派遣所  
 相川 湊 分署  
 警察署  
 吉井村 巡查派遣所 内浦村 巡查派遣所 河崎村 巡查派遣所  
 岩首村 巡查派遣所  
 相川 新穂分署  
 警察署  
 畑野村 巡查派遣所 小倉村 巡查派遣所

●明治廿三年(十一月)告示第百八十八號  
 巡查派遣所ヲ自今巡查駐在所ト改稱ス

○禁令

●明治廿三年(八月)縣令甲第六十五號  
 明治十八年(二月)本縣甲第十八號布達摺附木製造ニ貴燐使用禁止ノ件ヲ廢ス

○貸座敷及娼妓取締

●明治廿二年(四月)縣令甲第三十二號

娼妓檢梅及驅梅規則

但明治十九年七月甲第百三十二號布達ハ廢止ス

娼妓檢梅及驅梅規則

- 第一條 娼妓ハ梅毒ノ檢査ヲ檢梅院其治療ヲ驅梅院ニ於テ受クベシ
- 第二條 檢査ヲ分ツテ定期檢査臨時檢査トス
- 第三條 定期檢査ハ一週日一回之ヲ受クベシ
- 第四條 臨時檢査ハ左ノ場合ニ於テ之レヲ受クベシ
  - 一 新クニ娼妓トナル片
  - 一 他ヨリ轉籍寄留ノ片
  - 一 梅毒ノ感染ヲ自覺スル片
  - 一 疾病其他事故ノ爲メ一泊以上他行及歸宅ノ片
  - 一 疾病全癒又ハ事故已ミタル片
  - 一 休業復業スル片
- 第五條 檢梅院ヨリ下付スル檢査證ハ平常必ス携帯スベシ  
 檢査證ハ廢業死亡若クハ他ニ轉籍寄留ノトキハ返納シ移轉又ハ遺失毀損セシ片ハ書換ヲ請フベシ
- 第六條 檢査證ハ檢査ノ際醫員ノ檢閲ヲ受クベシ

第十三類 禁令 貸座敷及娼妓取締

第七條 検査當日疾病其他ノ事故ニ依リ出頭シ難キ片ハ其時限前検査證及醫師ノ診断書又ハ事由書ヲ添ヘ届出ベシ此場合ニ於テハ其ノ家ニ就キ検査スルコトアルベシ  
但シ父母病氣危篤ノ片ハ検査ヲ受ケズシテ出行スルヲ得ルト雖モ患者ノ診断書(或ハ確實ナル書面)及検査證ヲ添ヘ届出ヘシ

第八條 検査ノ際醫員介婆ノ外其室ニ入ルヲ許サス  
但衛生又ハ警察官吏ハ時宜ニ依リ臨監スルコトアルベシ

第九條 検査ノ際有毒ノ者ハ検査證ヲ醫員ヘ交付シ直チニ驅梅院ヘ入院シ全治退院ノ片ヲ受取ルベシ

有毒トハ異性梅毒假性梅毒雜症(淋疾、白帶下、及膿痰子宮、潰瘍、剝脫、疥癬、痔漏)トス

第十條 入院中他病併發スル者ハ自宅治療セシムルコトアルベシ  
自宅治療中ハ驅梅院ヨリ下付スル木標ヲ戶外ニ掲クヘシ

第十一條 入院中父母病氣看護ノ爲メ退院セントスル片ハ患者ノ診断書ヲ添ヘ届出許可ヲ受クヘシ  
父母病氣危篤ナルモノハ第七條但書ノ手續ニヨリ退院スルヲ得

但往復ヲ除キ一周日以内歸院スル能ハサル片ハ每一周日患者ノ診断書ヲ添ヘ届出ヘシ

第十二條 第十條第一項第十一條ノ場合ニ於テハ他醫ノ治療ヲ受クルヲ得

第十三條 入院中ノ治療費ハ支給スト雖モ食料並ニ夜具ハ自辨トス

第十四條 検査ニ關スル雜務ハ貸坐敷取締之レヲ擔任スヘシ

第十五條 願届等ハ總テ貸坐敷主及取締ノ連署ヲ要ス

第十六條 本則第一條第三條第一項第四條第三項乃至第六項及第十條ノ第二項ニ違背シタル者ハ五十錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●明治廿二年(五月)縣令甲第六十四號  
明治廿一年(二月)縣令甲第廿號貸坐敷娼妓取締規則第四條ヘ左ノ但書追加ス  
第四條  
但其不納スル者ハ稼業ヲ停止シ日數十日ヲ過クル片ハ廢業セシムヘシ

●明治廿二年(六月)縣令甲第七十號  
明治廿一年(二月)縣令甲第二十號貸坐敷娼妓取締規則第三十三條中五トアルヲ六ト改ム

●明治廿三年(四月)縣令甲第三十五號  
明治廿一年(二月)縣令甲第二十號貸坐敷娼妓取締規則第一條稼業區域中南北昆沙門町ノ一項ヲ刪除ス

○諸典行取締

●明治廿二年(十月)縣令甲第三百三十九號  
明治廿年(八月)縣令甲第一百八十八號遊藝者取締規則中第二條及第一號書式左ノ通改正シ第三條第四條及第二號書式ヲ削除シ第五條第六條ヲ順次繰上ケ第四條中第五條ノ五ノ字ヲ三ノ字ニ改ム

第二條 遊藝營業ヲ爲サント欲スルモノハ書式ニ準シ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受ケ  
廢業轉居改姓名ノ節ハ書面又ハ口頭ヲ以テ届出ツヘシ  
書式

猿樂(又ハ何々)營業願

私儀遊藝者取締規則ヲ遵守仕候間角力(又ハ何々)營業御許可願上候也

何郡(市)何町村(大字何々)何番(寄留)

(何廳府縣)士族(平民)

(藝名アレハ其名)

年月日

何 之 年 齡

何警察署(又ハ分署)御中

●明治廿二年(十一月)縣令甲第百五十五號

明治二十年(十一月)縣令甲第百五十五號劇場人寄席觀物場諸興行取締規則第七條左ノ通改正

シ第十九條中倫理ヲ亂リノ下ヘ又ハ殘酷ノ所業ノ七字ヲ追加ス

第七條 遊藝ノ許可ヲ得サルモノニハ藝ヲ爲サシムヘカラス但木戸錢ヲ要セサル諸興行ハ此  
限リニアラス

●明治廿二年(十一月)縣令甲第百五十六號

明治廿年(八月)縣令甲第百十八號遊藝者取締規則第三條左ノ通改正ス

第三條 營業者ハ正實ヲ旨トシ殘酷ノ所業其他猥褻醜體ノ所作及譁談ヲ爲スヘカラス

○印判職取締

●明治廿二年(五月)縣令甲第六十一號

明治十五年(五月)甲第百二十九號布達印判職取締規則第十條ヲ削リ以下順次繰上ケ第十一條  
中第十一條ノ四字ヲ削除ス

○人力車取締

●明治廿二年(十月)縣令甲第百三十四號

明治二十年(五月)縣令甲第八十二號人力車取締規則中左ノ通改正追加ス

第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ輓カシメ又ハ貸車ヲ爲シ若シハ自ラ車ヲ輓キ營業ス  
ルモノヲ云フ

第四條 輓子ヲシテ車ヲ輓カシムル者ハ輓子ノ族籍住所氏名年齢ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届  
出一人ニ付鑑札一個ヲ受ク可シ

第五條 自ラ車ヲ輓ク營業者ハ總テ輓子ニ關スル規定ニ從フヘシ其他ノ營業者ニシテ自ラ車  
ヲ輓クトキ亦同シ

第十九條 第五十八條 左ノ但書ヲ追加ス

但監視中ノ者ヲ除キ修改ノ狀アリト認ムルモノハ特ニ許可スルコトアルヘシ

第十三類 印判職取締 人力車取締



第廿六條 公設又ハ私設駐車場ノ設アル地ニ在テハ該駐車場ノ外人力車ヲ置クヘカラス但乘客用便ノ爲メ往來ノ妨害トナラサル場所ニ駐車スルハ妨ナシ

第四十五條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

(第一項第二項共從前ノ通)

第四十六條 公設駐車場ハ本廳ニ於テ之ヲ定メ標示スヘシ私設駐車場ヲ設クルモノハ所轄警察署分署ヲ經由シ本廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

○街路取締

●明治廿二年(十一月)縣令甲第百五十八號

明治二十年(六月)縣令甲第九十五號ヲ以テ街路取締規則實施地相定置候處來ル明治二十三年一月一日ヨリ左ノ町村及ヒ之ニ接續スル連簷櫛比ノ地ヘモ之ヲ施行ス

但本則第九條第十條ハ當分ニ施行セズ

- 北蒲原郡 葛塚村 中條町 水原町大字水原村
- 中蒲原郡 新津町大字新津 沼垂町大字沼垂 龜田町大字龜田村
- 小須戸町 白根町大字白根 五泉町大字五泉
- 西蒲原郡 卷村大字卷 地藏堂町大字地藏堂
- 燕野村 金卷村 曾根村大字曾根
- 吉田村大字吉田

- 南蒲原郡 加茂町 今町大字今町新田 見附町大字見附
- 東蒲原郡 津川町 寺泊町 出雲崎町 關原村大字關原
- 三島郡 與板町 堀之内大字堀之内 小出町大字小出島
- 古志郡 椋尾町大字椋尾町
- 北魚沼郡 小千谷町 六日町村大字六日町
- 南魚沼郡 十日町村 鉢崎村大字鉢崎 大崎村大字新井 瀧町村大字瀧町
- 中頸城郡 柿崎村 能生町大字能生町
- 西頸城郡 椎谷町 宮川町大字宮川 石地町村大字石地
- 刈羽郡 岩船町大字岩船 相川町大字相川 川原田町 新町
- 岩船郡 相川町大字相川 澤根町村大字澤根町
- 雜太郡 夷町 羽茂郡 加茂郡 羽茂郡 小木町大字小木

○銃砲、火藥、取締

●明治廿二年(五月)縣令甲第四十七號

第十三類 街路取締 銃砲、火藥、取締

明治十九年(九月)縣令甲第十七號火藥取締細則中左ノ通追加改正ス  
第一條第十一條中烟火ノ下及現行第十三條導火繩ノ下へ投玉ノ二字ヲ追加ス  
第十二條追加

烟火投玉導火繩等ヲ運搬スルハ危害ノ虞ナキ様相當ノ器物ニ入レ外部ニ品名ヲ表記スヘシ其五貫目以上ニシテ自カラ運搬スル場合ヲ除クノ外總テ護送人ヲ付スヘシ  
但船積スルハ明治六年(八月)第二百九十二號布告危害品船積法ニ據ルハ勿論ナリトス  
現行第十二條第十三條トシ以下順次繰下シ  
第十九條改正

本則第一條ニ違背シ投玉マツテ導火繩類ノ製造營業又ハ投玉請賣營業ヲ爲シタル者第七條第八條ニ違背シ製造若シハ打揚ヲ爲シタル者及第十條第十二條第十三條第十五條第十七條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處シ第一條中免狀ヲ受ケスシテ烟火ヲ製造販賣シ又ハ第十一條ニ違背シタル者ハ刑法第四百廿五條ノ違背罪ニ處セラルヘシ

第一號書式中烟火製造ノ下へ投玉製造ノ四字ヲ追加シ烟火請賣トアルヲ烟火投玉請賣ト改ム  
●明治廿三年(四月)告示第五十七號

陸軍省ニ於テ火藥取締規則ニ依リ火藥類ノ拂下ハ從前砲兵第一方面及全第二方面ニ於テ取扱來候處自今東京砲兵工廠及大坂砲兵工廠ニ於テ取扱相成候條拂下ヲ受ケントスルモノハ該廠へ願出ヘシ

○遺失物、漂流物ノ拾得、埋藏物、盜贓物、發見届方

●明治廿三年(十二月)縣令甲第八十八號  
遺失物漂流物ノ拾得埋藏物盜贓物(賊拾置品共)ノ發見届ハ所轄警察署分署ニ限ル旨明治廿二年(四月)縣令甲第四十一號ヲ以テ發布候處自今ハ便宜警察署分署巡査駐在所ノ内へ届出ルコトヲ得

●明治廿二年(七月)告示第八十六號  
明治二十二年(二月)告示第十五號國稅地方稅及ヒ其他ニ關スル諸鑑札免許証ノ流失遺失等ノ件但書削除ス

○職遊獵

●明治廿三年(一月)縣令甲第十四號  
鳥獸獵免狀ヲ受ケ其獵期中族籍姓名ヲ變換シ又ハ住居ヲ移轉シタル片ハ所轄警察署ニ届出ヘシ  
他管ヨリ寄留セル者ニシテ本管ニ復歸シ又管内外ヲ問ハズ轉籍若シハ寄留シテ引續キ銃獵スル者ハ甲乙兩地ノ所轄警察署(他管ニ在リテ郡役所ヨリ免狀ヲ受ケシ片ハ該郡役所へ)ニ届出ヘシ且該免狀ハ獵期後二十日以内ニ當初受取タル官署ニ返納スヘシ

第十三類 遺失物、漂流物ノ拾得、埋藏物、盜贓物、發見届方 職遊獵 五百八十七

第十四類

虫害驅除豫防

●明治廿三年(四月)諭達第五號

桑の樹を害する昆蟲類ハ其數甚タ多シト雖モ就中最も恐るヘキハ一ヤクとりむ(尺蠖虫)の害ヲ若シ其發生を見るモ漫然之を放棄するム於テは桑の稚芽又は軟葉を蠶食シ容易クハさる損害を來すもの奇リ然るモ當春以來縣下各地於テ間々此恐るヘキ害虫の發生せるを聞知したるを以テ取敢ヘト去る二月中各郡役所へ驅除法數ヶ條を示シ注意を促かさしめたり一カ目下桑樹萌芽の候ハ際ハ際々蠶食を逞ムするの景況より現一株に數十疋を旗からそののありと云ふ今原虫を見るも業一一寸三分ハ成長し幾多の嫩芽を腹中消化せり今ふて之ハ驅除法を施さざるム於テハ其害延いて來年及ひ終に臍を噛むの悔ひ慚るヘシ桑園を所有するもの焉んろ注意せしめて可からん哉宜ク各自桑園を巡視し此機を誤らす捕殺法を施し損害を未だ甚一からざるム防くの計を怠すヘシ

蹄鉄工

●明治廿三年(八月)訓令甲第五十二號

郡役所 市役所 町村役場

明治廿三年(四月)法律第三十一號蹄鉄工免許規則第十二條ニ據リ蹄鉄工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ左ノ細則ニ依リ取扱フヘシ

蹄鉄工假免許細則

第一條 蹄鉄工之シキ地ニ於テ蹄鉄工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ書式ノ願書ニ履

歴書ヲ添ヘ左ノ事項ヲ取調郡市長ヨリ具狀スヘシ

一 區域、廣袤、地勢及馬匹頭數

一 營業年限

第二條 蹄鉄工假免許人ハ一區域ニ一人ヲ限ルヘシ

第三條 蹄鉄工假免許ノ年限ハ滿二年以内トス

但免許期限ヲ經ルモ仍ホ蹄鉄工ニシキ場合ニ於テハ此細則ニ據リ更ニ假免狀ノ下付ヲ具申スルヲ得

第四條 蹄鉄工假免許人ハ區域外ニ出テ蹄鉄ノ業ヲ爲スヲ得ス

第五條 蹄鉄工假免許人ニシテ本免狀ヲ得タルトキハ其假免狀ハ返納セシムヘシ

第六條 蹄鉄工假免許年限中其區域内ニ於テ本免狀ヲ得タル蹄鉄工ノ開業者アルトキハ郡市長ハ經伺ノ上假免狀ヲ返納セシムルヲ得

(願書式)

蹄鉄工假免狀下付願

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

氏名

年月生

私儀何郡市何町(村)何番戸ニ於テ蹄鍔工開業仕度候間假免狀御下付被成下度別紙履歷書相添  
此段願上候也

年 月 日

右

市町村長 氏 名 印

農商務大臣宛

○農商工通信事項

●明治廿二年(五月)訓令甲第四十二號

郡役所 市役所 町村役場

農商工通信事項別冊ノ通改正候條町村役場ニ於テハ期限十日以前ニ所轄郡役所へ差出シ郡役  
所ニ於テハ一郡ノ總計ヲ調製シ明治二十二年分ヨリ右離形ニ準據本廳へ差出スヘシ  
但從前相違置候各港灣出入船舶表全商品輸出入表水運賃錢平均表全品別表及ヒ概況報告部  
中米麥養蠶茶金融ノ諸項景況ハ是迄ノ通り報告スヘシ

農商務通信事項統計樣式